

令和4年度  
(第18回)

# 運営諮問会議報告書

令和4年度(第18回)

運営諮問会議報告書

新居浜工業高等専門学校

令和5年3月

新居浜工業高等専門学校



## はじめに

新居浜工業高等専門学校では、学校の管理運営に関して外部の有識者の皆様からご意見を伺う運営諮問会議を平成16年度から毎年度一回開催しています\*。今回は令和5年3月2日に第18回目会議を新居浜市市民センター会議室にて開催致しました。

国立高専機構は、平成16年の独立行政法人化以降5年ごとに中期目標を立て、今年度は第4期中期目標期間の四年目の年度となっています。第4期の重点課題として、入学者の確保、教育課程の編成等、多様かつ優れた教員の確保、教育の質の向上及び改善、学生支援・生活支援等、社会連携、国際交流の推進などが掲げられています。本校もこの方針に基づいて、その実施に取り組んでいます。

第4期では、より一層のグローバル化と、各高専がこれまでに培ってきた強みを活かすような特色ある学校づくりが求められています。また、産業界からは、新しい価値を創造できる人材、変化に対応できる人材、実践的・探求的な人材などの育成が求められています。特に令和4年度文部科学省補正予算において、アントレプレナーシップ関連にて「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」の公募があり、本校も大型予算申請を行いました。このような求めに応えるべく、これまでに築き上げてきた地域との連携が生み出した強みを活かして、地域に貢献できる次世代型技術者の育成、起業家人材の育成などにも取り組んでいます。

こうした取組には、定期的な自己点検と外部からの視点に基づく評価が重要であります。この運営諮問会議では、外部の有識者の皆様から本校の活動について様々なご意見を伺っております。そして頂きましたご指摘等は、外部の視点からの貴重な点検と位置付け改善を進めて参りました。

令和2年以来コロナ禍の下で、学校一体となって取り組んだオンデマンド型の遠隔教育、各種行事のオンライン化から、with コロナのステージに入ってから新たな取組と実績を紹介しつつ、本校の概要及び本校の目指す姿を説明しております。今回も委員の皆様から貴重なご意見、ご要望等を頂きまして、今後の新居浜高専の管理運営の参考にさせて改善・改革に役立てていきたいと考えています。

今後とも、本校に対してご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月

新居浜工業高等専門学校

校長 鈴木 康司

\*平成19年度は不開催。

## 目 次

はじめに

1. 運営諮問会議次第	-----	1
2. 運営諮問会議委員名簿	-----	2
3. 学校側出席者名簿	-----	3
4. 議事録	-----	5
5. 説明資料	-----	1 5
6. 令和3年度 年度計画及び進捗状況	-----	3 7
7. 新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程	-----	4 6

# 第18回新居浜工業高等専門学校運営諮問会議 次 第

1 日 時 令和5年3月2日（木） 14：00～16：30

2 場 所 新居浜市市民文化センター 別館4階 大会議室

3 日 程

時 刻	事 項
14：00	開会 校長挨拶、委員紹介、学校側出席者紹介、議長選出
	議題
14：10	1. 学校概要について----- 校長
14：25	2. 前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について -----副校長（総務企画担当）
14：30	3. 昨年度の活動状況と自己点検に基づく、令和4年度の新たな取組について (1) 教育に関する事項 -----教務主事 専攻科長 情報教育センター長
14：55	(質疑応答)
15：15	(休憩)
15：25	(2) 学生支援に関する事項-----学生主事 寮務主事
15：40	(3) 研究、地域連携、及び社会貢献活動に関する事項 -----高度技術教育研究センター長 エンジニアリングデザイン教育センター長
15：55	(4) 国際交流関係に関する事項-----グローバル教育センター長
16：00	(5) 男女共同参画に関する事項----- 男女共同参画推進室長
16：05	(6) 自己点検に関する事項-----副校長（評価担当）
16：10	(質疑応答)
16：25	4. 総評
16：30	閉会

## 新居浜工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿

任期：～令和6年3月31日

(五十音順・敬称略)

氏 名	現 職
石 川 勝 行	新居浜市長
大 場 浩 正	住友金属鉱山（株） 執行役員 別子事業所長
近 藤 栄 一	愛媛県小中学校長会 理事 新居浜市立川東中学校 校長
高 橋 寛	国立大学法人愛媛大学 工学部長 国立大学法人愛媛大学大学院 理工学研究科長
平 田 利 實	ユースエンジニアリング(株) 元代表取締役社長 (本校電気工学科 昭和44年卒業)
山 本 泰 士	愛媛県東予地方局長
横 川 明 英	新居浜商工会議所 会頭

代理出席者

(五十音順・敬称略)

藤 田 武	新居浜商工会議所 事務局長
松 原 広	新居浜市 経済部 産業振興課 課長

## 学校側出席者名簿

職 名	氏 名
校 長	鈴 木 康 司
副校長 (総務企画担当)	福 田 京 也
副校長 (評価担当)	皆 本 佳 計
副校長 (改革担当)	早 瀬 伸 樹
教 務 主 事	衣 笠 巧
学 生 主 事 (兼)保健管理センター長 (兼)グローバル教育センター長	野 田 善 弘
寮 務 主 事	日 野 孝 紀
専 攻 科 長	香 川 福 有
高度技術教育研究センター長	志 賀 信 哉
高度技術教育研究センター 研究推進部門長	松 友 真 哉
高度技術教育研究センター 地域連携部門長	吉 川 貴 士
高度技術教育研究センター 高度教育部門長	加 藤 克 巳
エンジニアリングデザイン 教育センター長	松 田 雄 二
情報教育センター長	栗 原 義 武
男女共同参画推進室長	白 井 みゆき
機械工学科 主任	浅 地 豊 久
電気情報工学科 主任	内 藤 出
電子制御工学科 主任	出 口 幹 雄
生物応用化学科 主任	中 山 享
環境材料工学科 主任	高 見 静 香
数理科 主任	古 城 克 也
一般教養科 主任	佐 伯 徳 哉
事 務 部 長 (兼)学生課長	三 戸 毅 啓
総 務 課 長	保 科 保





# 議 事 録

## 議事及び質疑応答の概要

### 議事

- 1 学校概要について …… 校 長
- 2 前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について  
…… 副 校 長  
(総務企画担当)
- 3 昨年度の活動状況と自己点検に基づく、令和4年度の新たな取組について

- (1) 教育に関する事項 …… 教務主事  
専攻科長  
情報教育センター長

### 【担当者から配付資料に基づき説明】



#### 【高橋議長】

ありがとうございました。それでは、ここまでの説明について委員の皆様からご質問、ご意見を伺います。



#### 【松原氏（石川委員代理）】

ご説明ありがとうございました。議事2『前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について』にもありますが、新居浜市では高専の力をお借りして地域の技術開発を推進していきたいと思っています。

これまでも新居浜高専には、研究開発系に関する新居浜市の支援制度をご活用いただいているところでもあります。現在、新居浜市では、この制度の見直しを行っております。まだ協議中ではありますが、令和5年度から新しい共同研究の支援制度を創設したいと考えています。制度の概要が固まりましたら、改めてご案内したいと思いますので、是非、ご活用・連携の程、お願いできたらと思っております。よろしくお願いいたします。



#### 【山本委員】

先程の発表報告の中にもございましたが、令和4年10月に、愛媛県と新居浜高専が包括連携協定を締結したことについて、次世代の人材確保の取り組み強化等において、引き続き連携させていただくよう、よろしくお願ひしたいと考えております。

議事2『前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について』のところで、特に人材育成については、デジタル人材育成推進会議や、IT人材バンクにも参画いただいておりますので、感謝を申し上げます。デジタル人材の育成は非常に重要で必要不可欠な課題でございますので、引き続きご協力をお願いしたいと思います。また、学生の県内定着率の向上においても、東予東部ものづくり次世代人材確保対策協議会の事業について、新居浜高専にご協力いただいておりますので、感謝を申し上げます。

今年度もコロナの影響がある中、新居浜高専の先生方と企業との意見交換会、企業の出張講座、それから企業体験イベントなどの事業にもご参加いただきました。また、新たに企業で働く若手のOB・OGの方にご協力いただきまして、学生のものづくり企業への関心を高めるためにSNS等を開設致しておりますので、今後も学生への周知、或いは事業への参加募集などにご協力をお願いしたいと思います。



#### 【近藤委員】

報告にもありましたように、中学校現場においてもここ数年、新居浜高専の志願者数が本当に減少したと感じていました。今年度は志願者数が回復しており、川東中学校或いは市内にある別の中学校の進路状況を見ると、新居浜高専を志望しているという声をよく聞くので、新居浜高専の魅力が浸透し始めた実感しています。

以前から、新居浜高専から多大なご協力をいただきながら、教育活動を進めてきました。夏休みには新居浜高専に理科教師と技術科教師が集まり、新居浜高専ならではの視点で教材開発をして、それを中学校現場での教育に生かすといった取組などもありました。コロナ禍以前は、新居浜高専と中学校現場とのタイアップが活発でしたので、これからコロナ禍が収まりましたら、そういった協力がどんどん為されていくことを期待しています。

今年度は夏季体験学習が中学3年生限定でしたが、令和5年度からは以前のように、中学3年に限らず幅広い学年を対象に実施していただきたいと思ひます。中学3年生になってから新居浜高専を志望しても対策が間に合わないことがありますので、小学生や中学1・2年生から新居浜高専を志望すれば、今の自分に何が必要なのかを見つけ、そこを育むような

アドバイスを中学校現場でもしやすくなると思います。

「(新居浜高専に行ったら) こんな大人になれるんだ。こんな社会人になれるんだ。」といった自身の将来像を描くことができるようにしていきたい。そのためにも新居浜高専の魅力を伝達するように中学校でも頑張っていますので、新居浜高専とも協力し合って、進路指導をしていきたいと思います。私も新居浜高専のいろいろな取組を理解しながら子どもたちと関わっていききたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



#### 【平田委員】

いつも少年少女発明クラブでお世話になっております。この発明クラブは令和元年に始まり、当初から新居浜高専のお力を借りまして、今まで続いています。クラブの参加者は小学5・6年生の児童ですので、令和元年に参加していた児童が、いよいよ今年、中学3年生になります。新居浜高専学生のかっこいい姿や勉強内容に憧れて、クラブにいた頃から新居浜高専を志望していた子どもが多くいます。

今年度、管理・電気情報工学科棟の屋上に設置されたパラボラアンテナも、小学生からは、かっこいい、宇宙がすぐ身近に感じられる、そういう勉強ができる場所として憧れを持たれていますので、期待しております。

今年もまた新しい子どもたちが春からまたやってきますので、よろしくお願いいたします。



#### 【藤田氏（横川委員代理）】

人材確保について質問をさせていただきたいと思います。新居浜高専のホームページに、「新居浜市ものづくり企業で就職を希望する卒業生の方へ」というページがあります。例えば、一度都会に出て、新居浜市へのUターン就職を希望する卒業生の方は、母校（新居浜高専）の窓口に相談すれば、ハローワークやコーディネーターとの連携を通して、企業を紹介されるようなシステムが作られています。これはどの程度の実績があるのか、それをお聞きしたいなと思います。

#### 【早瀬副校長（改革担当）】

実績はそれほど多くないというのが現状でございまして、私の知っている限りでは恐らく2、3件ぐらいだったと思います。この制度とは別に、卒業した研究室の教員等に相談して、関連企業を紹介してもらい、再就職に繋がっているケースの方が多いのではないかと思

います。

**【藤田氏（横川委員代理）】**

はい、分かりました。新居浜商工会議所の立場としては最初から新居浜に就職して欲しいのですが、傾向として、一度は県外の世界を体験したい学生が多いということですので、Uターン就職の助けになるようなシステムをより一層、周知していただければと思います。

新居浜の事業所は人材不足が続いておりますので、何とか解消して、現状を打破したく、市やハローワークとも連携して頑張っていきたいと思いますので、よろしく願います。



**【大場委員】**

昨年、志願者数が減少したことについて質問しましたが、丁寧にご回答いただきましてありがとうございます。近藤委員も仰っていましたが、今年は志願倍率が1.5倍で、以前と同じようなレベルに戻ってきたとのことで、活動の成果を出されているということを確認させていただきました。

データサイエンスのように、今をときめく分野にも力を入れていらっしゃいますし、一方で情報セキュリティに関しても、すべての学生の方を対象に教育をしているとのこと、さらに、人としての広がりを持つために必要となるリベラルアーツに関しても教育を行っていることから、バランスの取れた良いプログラムを実行されているのだなということ后感心いたしました。

感想になりましたが、以上でございます。

**【高橋議長】**

ありがとうございました、他にいかがでしょうか。最後にまた皆様から一言いただきたいと思いますので、それではここで一旦休憩にさせていただきます。10分間休憩となりますので、15時23分から会議を再開したいと思います。

～ 休 憩 ～

**【高橋議長】**

それでは時間になりましたので、議事を再開いたします。

## 議事

- (2) 学生支援に関する事項 …… 学生主事
- (3) 研究推進活動、地域連携活動、高度教育活動に関する事項 …… 高度技術教育研究センター長
- (4) 国際交流関係に関する事項 …… グローバル教育センター長
- (5) 男女共同参画に関する事項 …… 男女共同参画推進室長
- (6) 自己点検に関する事項 …… 副校長（評価担当）

### 【担当者から配付資料に基づき説明】

#### 【高橋議長】

はい、説明ありがとうございます。それではこれから質疑に移りますが、全体を通して、委員の方から何かありましたら、挙手いただけますでしょうか。



#### 【山本委員】

東予地方局による独自の事業で「デジタルを活用した地産地消・食育推進事業費」というものがありまして、愛媛県議会でも議論していただいているところでございます。事業概要と致しましては、東予東部（新居浜市、西条市、四国中央市）の学校給食の地場産品使用率が非常に低く御座いますので、新居浜高専と連携して、地産地消と食育の推進に取り組み、地場産品の使用率向上を図ろうという事業でございます。具体的にはポータルサイトを構築して、スマート農業などの動画を配信し、リアルとデジタルで、地域の小学校と家庭を結び付け、地産地消の比率を上げていこうという取り組みでございます。既に電気情報工学科の加藤克巳先生と情報交換をさせていただきながら、ポータルサイト開設に向けて協議をさせていただいておりますので、こういった事業に参画していただいておりますことをお礼申し上げますと共に、今後とも宜しくお願ひ申し上げたいと思っております。

それと、全体を通してと言うことでございますので、その他の地域連携について申し上げますと、愛媛県総合科学博物館では、「高専衛星からのモールス信号を受信してみよう」という連携イベントも開催させていただいております。他にも、先日、新居浜市長と一緒にあかがねミュージアムで開催された全国お手玉大会を拝見させていただいたのですが、新居浜高専の奇術部が優勝を収められていました。非常に活発に地域に密着した連携活動をされておりますということで、引き続き、私どもも皆様方と一緒に地域の課題に取り組んで参りたいと思っておりますので、お願ひ・感想ということで、よろしくお願ひします。



#### 【近藤委員】

学生が育つネットワークや地域連携の場があり、素晴らしいと感じました。例えば、商売する人だったら、自分が練ったサービス、それによってお客さんが喜び、売上が上がる、そしてまた次に進む励みになる。ものづくりも、最初は与えられたものかもしれないけれども、そこに自分のアイデアが入って、形になっていくことの喜びを感じる。それを公開する場面があれば地域の人や子どもたちの喜ぶ顔を見ることができ、さらに、もっといいものを作り出すんだという意欲につながり、知識を求め、技能向上を求める。そのスパイラルで産業界は発展してきたのだと思います。日頃から、教員と学生がコミュニケーションをとって、様々な活動をしていることが、今の報告で本当に感じられました。

あと、出前講座で学生が中学校に来てくれたことを振り返らせていただきました。かわいいですね。学生さんが中学生の前で一生懸命に授業をし、その中で大切なコミュニケーション力、そしてプレゼン力というものを理屈抜きで学んでいく貴重な場面もたくさんありました。

そして、困りごとを抱える学生も増えてきていると思われる中で、学生支援において仲間同士で支え合う仕組み（ピアサポート）をどんどん進めていることに感心しました。当然、学生支援専門の方もたくさんいますけど、やっぱり仲間の支えというのが、子どもたちの今後へ繋がっていくと思います。その取組は本当にありがたく、感謝申し上げます。



#### 【藤田氏（横川委員代理）】

新居浜高専を志願する中学生を増やす手段についてです。ものづくりというのは必ずしも数学と理科だけができたら良いというものではないと思っています。新居浜高専への志願倍率をより向上させるためには、ものづくりへの意欲はあるけど、数学・理科が不得意である生徒を新居浜高専へ迎える方法についても検討する余地があるのではないかと思います。例えば、私立大学だったら、文系は英語と国語と社会が入試科目として一般的ですが、敢えて数学を必須にすることで、数学に長けた学生も合格させるといったように、その学校によって独自に設定ができると思います。恐らく、高専は全国的に統一された入試システムだとは思いますが、もし検討される余地があるならば、幅広く意欲のある優秀な学生を受け入れることを考えてみてはどうかと、思いつきで乱暴な意見かも知れませんが、（学生の募集について）考慮の余地があるのではないかと、耳に入れさせていただきました。

### 【鈴木校長】

貴重なご意見ありがとうございます。本校は、去年までは推薦入試での合格者は（全体の）40%としていましたが、それを今年から50%に引き上げました。この引き上げた理由には、もちろん今のような、意欲はあるけれども直接点数には結びつかない、しかし高専で学ぶことで活躍したいという人材を受け入れたいということもあり、推薦入試での合格者割合を上げております。例えば、リーダーシップがあるとか、他の人とは違う発想ができるとか、そういった生徒をなるべく受け入れたいというようなことで、まあ微力ながら進めております。学力の方はですね、確かに数学が苦手という学生もいますけども、ちょっと何か一つのきっかけで急に伸びるとか、そういった面もありますので、本校としては最低限授業についていける生徒であるならば、推薦入試で積極的に受け入れるということをしております。そういった学生がどのように伸びているかということも、いずれ検証を行いたいと思っております。



### 【平田委員】

事前資料配付の際に頂いたクリアファイル（高専制度60周年記念のもの）をご覧いただきたいのですが、各高専の校章を並べたものがデザインされています。新居浜高専の校章には昔から変わらない力強さがあります。一方で、令和5年度から新しく開校される「神山まるごと高専」という高専もあり、少しずつ様変わりしているように感じます。5年間の一貫教育というのが高専システムの最大の特徴ですが、これからも（高専の）可能性はすごく広がるのではないかと思います。感想となりますが、よろしくお願いいたします。



### 【高橋議長】

はい、ありがとうございました。

それでは、時間をいただきまして議長のほうから僭越ながら発言をさせていただきます。今回、色々な資料を見せていただきまして考えた総評でございます。まずは、コロナ禍においても、学生の学びを止めない活動に対して、昨年度同様改めて敬意を表します。

定員確保に関しては、さまざまな広報活動を実施された結果、志願者数がコロナ前の水準（倍率1.5倍）になったことが評価できます。これまでコロナ禍の影響で、対面での情宣活動は制限されましたが、今年度は対面での学校見学会や国領祭での入試情報コーナーの開設を再開され、その効果があったと判断できます。

今年度は、入試広報と入学者選抜の在り方に関して、顕著な取組をされたことが評価でき



ます。具体的には、卒業生に協力してもらい広報誌に高専のよさを漫画において分かりやすく中学生に伝える取組やテレビの地上波CM放送によって視覚的に高専の雰囲気を伝えるなどの取組が評価できます。さらに、入試においてWEBによる出願を定着させたことも評価できます。

高専創立60周年の節目の年を迎えて、様々な記念事業を積極的に実施されたことは、在学生の士気の高揚だけでなく、広く地域の方々へ高専の活動を認知してもらう良い機会になったと考えます。このことが本年度設立された新居浜高専基金につながることを期待します。

これからの高専の新しいあり方を考えて、地域の金融機関、愛媛県、県内の地域、海外の教育機関などと積極的に協定を締結されたことが評価できます。これまでに着実に成果をあげている工学技術者教育から起業家教育や防災・町づくり・環境・一次産業などの境界・融合分野への教育などへ教育の方向性を拡大される方針であることを高く評価します。

卒業、修了後の進路に関しては、県内企業をはじめとして、企業への就職と大学、大学院への進学などの多様な進路が確保されていることがわかります。

学生に対する教育においては、新しい時代の潮流である数理データサイエンスAI教育に関して、令和4年度入学生以降から「データサイエンス」科目を新設されるなどの対応を遅滞なく行っていることが評価できます。

工学教育においてもトランスファラブルスキルの涵養が重要であると指摘されているなか、その対応として、いち早く「リベラルアーツ演習」を新設されたことが評価できます。

教学マネジメントの観点から、組織的に質保証の取組を継続し、e-ポートフォリオの導入などの新しい取り組みも積極的に実施されていることを高く評価します。

専攻科教育に関しては、入試方法も含めた学生の質保証の取組や起業教育の充実などによって新しい方向を模索されていることに期待します。専攻科教育のアウトカムズとしては、その研究成果を積極的に対外発表できる環境を構築されることを期待します。

情報教育センターを中心とした高専の情報環境整備・支援を高く評価させていただきます。さらに、高専における情報セキュリティ教育を定着させるための取組に期待します。

学生支援に関しては、コロナ禍での感染予防対策を徹底したイベントの開催やコロナ禍の多様かつ複雑な学生のメンタルヘルスのケア、社会とのつながりが多様化する中での学生の安全な生活の確保など様々な問題に対して積極的に対処されていることを評価すると共に、敬意を表します。

学寮に関しては、コロナ禍においても高専教育のひとつの特徴でもある学寮における学生の生活を安全に継続させるために多様な取組を成されたことに敬意を表します。学寮が安全で充実していることは、入学志願者の増加にも資すると考えますので、今後の継続的な取組を期待します。

高度技術教育研究センターに関しては、研究推進、地域連携、および高度教育の3本柱を確立され、継続的に成果を上げていることを評価します。今後は、新居浜高専、弓削商船高

専、および愛媛大学工学部の3者の連携を強化した取組に発展させることを期待します。

エンジニアリングデザイン教育センターに関しては、新しい取り組みとして高専の学びを高めるキャンパス創造プロジェクトの成果を評価させていただきます。さらに、高専教育の成果であるものづくりの楽しさを多様な機会を設定して、積極的に外部の方々に提供するイベントを開催されていることは評価できます。このような取組は、高専教育の理解や志願者の獲得につながることで、今後の取組を期待しています。

グローバル化に関しては、海外高等教育機関との連携強化やタイ高専からの学生受入れなどを期待します。さらに、新居浜高専生を派遣する事業の拡大に期待します。

男女共同参画は、今後、益々重要な取組となり、特に工学系の教育機関では積極的な取組を期待しております。

以上まとめますと、コロナ渦の中でも、教育・研究を止めない取り組みに改めて敬意を評します。地域の要望に応えるなどの教育・研究の仕組みを着実に構築されており、そのことが地域からも高く評価されていると考えます。また、中学生卒業時から技術者を目指すという人材の確保とその育成が十分に機能していることから、志願者倍率がコロナ前に回復していることを評価致します。今後の発展が十分に期待できると思いますので、今後ともご活動よろしくお願い致します。



#### 【鈴木校長】

本日は貴重なご意見をありがとうございました。

特に、少子化に向けてということで、近藤先生から、中学3年生からではなく、小学生や中学1・2年生の頃から積極的にPRをとということをご意見いただき、大変に痛感するところでございます。

平田様には、日頃から小学生にも新居浜高専の魅力を伝えていただいております。私立・県立の

中高一貫校が増えている中、小学生も対象とした、新居浜高専の志願者を集めるための方策が必要であるということを痛感致しました。

更に、大場様、藤田様からは新居浜での就職についてご意見いただき、今いる学生だけではなく、Uターン就職等を希望する卒業生への支援。特に、大学に進学した学生が新居浜への就職を希望するにあたっての情報提供。例えば、東京では全国の就職情報が集まりますが、新居浜の求人の特化した情報と言うのは拾得しにくいであろうことを痛感いたしました。そういった学生は本校に声をかけていただければ、求人情報を提供できること、周知していきたいというように考えております。

高専機構では、「じんざい」の「ざい」の字を「材」ではなくて、財産の「財」、「人財」としております。これからも、優れた人財をできるだけたくさん、輩出できるように努力をして参ります。本日はどうもありがとうございました。

# 説 明 資 料

- (独) 国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校の概要
- 第 17 回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応について
- 教育に関する事項
- 学生支援に関する事項
- 研究推進活動、地域連携活動、高度教育活動に関する事項
- 国際交流関係に関する事項
- 男女共同参画に関する事項
- 自己点検に関する事項

技術で世界へ未来へ

## (独) 国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校の概要



新居浜高専 創立60周年記念講演会

第18回運営諮問会議(令和5年3月2日)  
校長 鈴木 康司

令和4年度(第18回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ

## 沿革

昭和37年 高専制度第1期校として設置(機械工学科、電気工学科、工業化学科)  
昭和41年 金属工学科を増設  
昭和53年 公害教育研究センターを設置 **12校でスタート、現在国立51高専**  
昭和62年 金属工学科を材料工学科に改組 **新居浜高専と奈良高専の2校**  
昭和63年 電子制御工学科を増設  
平成4年 **全国に先駆け専攻科設置(生産工学専攻、電子工学専攻)**  
平成9年 工業化学科を生物応用化学科に改組  
平成11年 公害教育研究センターを高度技術教育センターに改組  
平成15年 電気工学科を電気情報工学科に改組、情報教育センターを設置  
平成16年 **独立行政法人国立高等専門学校機構新居浜工業高等専門学校へ移行**  
生産工学専攻を生産工学専攻及び生物応用化学専攻に改組  
平成17年 ものづくり教育支援センターを設置  
平成19年 材料工学科から環境材料工学科に改組  
平成29年 ものづくり教育支援センターをエンジニアリングデザイン教育センターに改名、  
保健管理センターを設置  
令和2年 グローバル教育センターを設置  
令和4年 創立60周年記念講演会(長岡技科大 鎌土学長:本校OB)


令和4年度(第18回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ

## 教育理念と基本方針

**教育理念**  
知恵・行動力・信頼

**教育の基本方針**  
学びと体験を通じて、  
未来を切り開く知恵と行動力を持った  
信頼される技術者を育てる



教室・会議室等、各所に掲示

**新居浜高専3つの方針(ポリシー)**  
入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)  
教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)  
卒業認定の方針(ディプロマ・ポリシー)

令和4年度(第18回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ


## 教育目標

**本科**

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

さらに、**専攻科の教育目標**に次の事項を加える。

- 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。



教室の掲示

令和4年度(第18回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ

## 本科および専攻科の構成

**本科(準学士) : 四国唯一の5学科で構成される高専  
多岐にわたる製造業に対応可能な学科編成**

- 機械工学科
- 電気情報工学科 (電気工学コース・情報工学コース)
- 電子制御工学科
- 生物応用化学科 (応用化学コース・生物工学コース)
- 環境材料工学科 (材料関係の学科を持つ高専は全国で4校(仙台、鈴鹿、新居浜、久留米))

**専攻科(学士)**

- 生産工学専攻
- 生物応用化学専攻
- 電子工学専攻

**特例適用認定専攻**

令和4年度(第18回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ

## 規模

令和4年5月現在

学科名	学生定員	在籍学生数	専任教員数等
校長			1名
機械工学科	200名	211名	9名
電気情報工学科	200名	209名	11名
電子制御工学科	200名	204名	10名
生物応用化学科	200名	219名	10名
環境材料工学科	200名	204名	10名
数理科			12名
一般教養科			13名*
小計	1,000名	1,047名 (291名)	76名 (7名)
専攻科学生			
技術室職員	40名	53名(10名)	12名(1名)
事務部(総務課・学生課)			30名(13名)
合計	1,040名	1,100名 (301名)	118名 (21名)

( )内は女性(内数)  
\*R4採用の外国人教員(英語)1名を含む

令和4年度(第18回)運営諮問会議

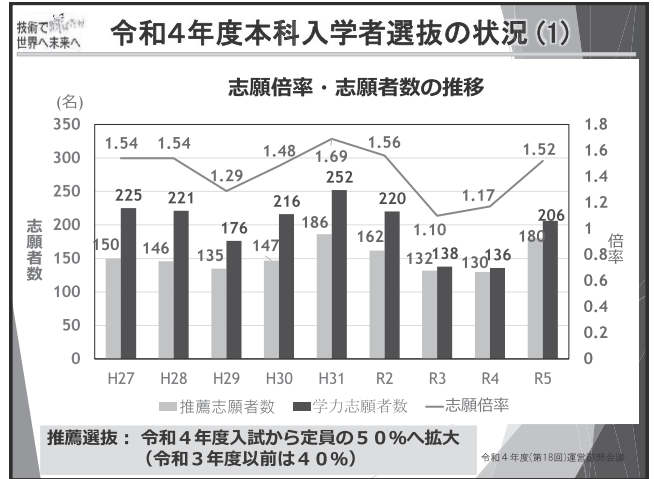
### 新居浜高専の教員内訳 令和4年5月現在

学科・科	機械	電気情報	電子制御	生物応用化学	環境材料	数理	一般	計
博士	8名	11名	10名	10名	10名	11名	6名	66名
技術士	1名	-	-	-	-	-	-	1名
修士	-	-	-	-	-	1名	5名	6名
他	-	-	-	-	-	-	2名	2名
計	9名	11名	10名	10名	10名	12名	13名	75名

★教員の退職：令和4年3月31日付 1名  
採用：令和4年4月1日付 2名

在外研究、直近5年間で1名

令和4年度(第18回)運営委員会報告書



### 令和4年度本科入学者選抜の状況(2)

学科名	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
機械工学科	44名	40名(1名)	44名	41名(5名)	63名	42名(5名)
電気情報工学科	46名	42名(4名)	41名	40名(4名)	62名	42名(5名)
電子制御工学科	47名	41名(7名)	45名	41名(7名)	63名	40名(4名)
生物応用化学科	51名	44名(26名)	44名	42名(26名)	61名	42名(24名)
環境材料工学科	46名	42名(14名)	46名	42名(13名)	62名	42名(16名)
計	234名	209名(52名)	220名	206名(55名)	311名	208名(54名)

注：( ) は女子で内数。第2・3志望の学科に合格した者の数は合格した学科の志願者として計上

令和4年度(第18回)運営委員会報告書

### 在校生の出身地域別状況 令和4年5月現在

地域	学生数	割合(%)
新居浜市	418名	38.0
西条市	203名	18.5
四国中央市	130名	11.8
今治市(越智郡含む)	97名	8.8
松山市	60名	5.4
その他愛媛県内	91名	8.3
愛媛県外	91名	8.3
外国人留学生	10名	0.9
計	1100名	100.0

東予地域 77.1%

#### 留学生

カンボジア	マレーシア	モンゴル	ラオス	計
1名	3名(2名)	3名(1名)	3名	10名(3名)

( ) 内は女子学生(内数)

令和4年度(第18回)運営委員会報告書

### 愛媛県内の中学生数の推移

#### 中学3年生生数の推移

年度	全国	愛媛県	東予4市	本校志願者数	倍率
H29	1,132,700名	11,816名	4,061名	258名	1.29
H30	1,111,742名	11,833名	4,144名	295名	1.48
H31(R1)	1,087,233名	11,285名	3,868名	338名	1.61
R2	1,051,982名	10,813名	3,797名	311名	1.56
R3	1,078,156名	11,178名	3,810名	220名	1.10
R4	1,079,465名	11,233名	3,947名	234名	1.17

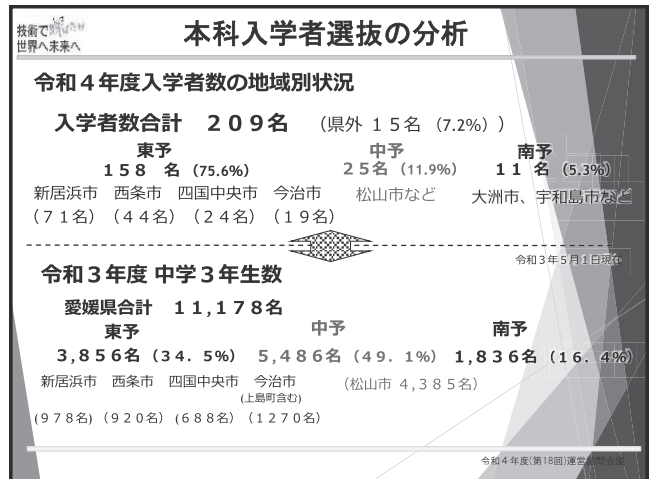
(5年間減少率) (4.7%減) (4.9%減) (2.8%減)

#### 愛媛県の年少(15歳未満)人口の推移と予測

H17	H22	H27	R2	R7	R12	R17
200,270	185,179	170,389	154,420	143,000	130,000	118,000

愛媛県の県立高校(全日制)の入学定員 (名)  
平成29年度：9,365名 ⇨ 令和4年度：9,025名

令和4年度(第18回)運営委員会報告書



## 入学者の確保対策(1)

**令和4年度入学者数の地域別状況**  
**入学者数合計 209名** (県外 15名 (7.2%))

東予		中予		南予	
158名 (75.6%)		25名 (11.9%)		11名 (5.3%)	

新居浜市 西条市 四国中央市 今治市 松山市など 大洲市、宇和島市など  
 (71名) (44名) (24名) (19名)

---

**令和3年度 中学3年生数** 令和3年5月1日現在

**愛媛県合計 11,178名**

東予		中予		南予	
3,856名 (34.5%)		5,486名 (49.1%)		1,836名 (16.4%)	

新居浜市 西条市 四国中央市 今治市 (松山市 4,385名)  
 (978名) (920名) (688名) (1270名)

松山市からの中学生の確保が課題  
**入試広報コーディネーター(特命助教)の採用(元公立中学校校長)**  
 平成30年9月から活動開始

令和4年度(第18回)運営協議会議

## 入学者の確保対策(2)

### 中学校へのPR活動(令和4年度)

- 中学校開催の進路説明会(47校)
- 中学校訪問(第1回目:6月頃、2回目:11月~12月頃)
  - ・愛媛県内(東予・南予地区)の中学校を対象に訪問(72校)
  - ・入試コーディネーターによる愛媛県内(中予地区)の中学校訪問(36校)
  - ・香川県(一部地域のみ)の中学校を対象に訪問(11校)
  - ・徳島県(一部地域のみ)の中学校を対象に訪問(13校)

※2回目の中学校訪問は、東予・中予地区に加え、夏季体験学習や学校見学会に参加した南予・徳島・香川地区の中学校のみ。

### 入試広報活動

- テレビCMをCATVから民放の放映に変更(令和3年度から)
- 中学生向けのパンフレット(はばたけ未来へ)および広報カレンダー(下敷)の作製・配布
- 学校紹介DVDの活用

令和4年度(第18回)運営協議会議

## 入試広報活動

### 夏期体験学習

- 実施日: 令和4年8月5日(金)、6日(土)
- 内容: 講座(10テーマ)、学校説明、学寮見学
- 参加者: 延べ685名(実人数457名)

### ものづくりフェスタin松山

- 実施日: 令和4年8月27日(土)、28日(日)
- 内容: ものづくり体験講座(対象:小学生・中学生) 受験相談会(対象:中学校教員、保護者)
- 参加者: 118名
- 会場: 愛媛県県民文化会館(別館)

### 学校見学会

- 実施日: 令和4年9月24日(土)
- 内容: 校内見学(全学科コース・学科別コース)学寮見学
- 参加者: 361名(中学生:222名、保護者:139名)

### 入試情報コーナーの開設

- 実施日: 令和4年11月5日(土)、6日(日)(同日に国領祭)
- 内容: 入試過去問題解説・学科別展示コーナー
- 参加者: 264名(中学生:156名、保護者:108名)

令和4年度(第18回)運営協議会議

## 高専卒業・修了後の進路(1)

### 令和3年度本科卒業生の就職・進学状況

学科名	卒業者数	就職者数	進学者数	その他	求人倍率
機械工学科	43名	32名	10名	1名	2.233
電気情報工学科	43名	31名	11名	1名	2.471
電子制御工学科	41名	24名	16名	0名	2.952
生物応用化学工学科	40名	16名	24名	0名	3.350
環境材料工学科	35名	23名	12名	0名	2.930
計	202名	126名	73名	2名	2.696

#### 就職先

旭化成株、AGC株、大阪ガス株、練カネカ、関西電力株、練カンゼツ、コベルコソフトサービス株、サントリーグループ、シックス株、JFEプラントエンジニア株、四国電力株、四国電力送配電株、練新来島どつく、SUBARU テクノ株、住友金属山形株別子事業所、住友重機械工業株、ソニーグループ、ロハルミニユアックチャリング&オペレーション株、ダイキン工業株、太陽石油株、練タマディック、東海旅客鉄道株、東レ株、練トップシステム、日東電工株、パナソニックグループ、練日立システムフィールドサービス、不二精機株、富士電機株、マルホ発條工業株、三浦工業株、三菱電機株、三菱電機エンジニアリング株、ユニ・チャームプロダクツ株、練ライトウェル株 他

#### 進学先

新居浜高専専攻科  
 編入学先(大学)  
 豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、室蘭工業大学、群馬大学、東京農工大学、電気通信大学、信州大学、福井大学、金沢大学、京都工芸繊維大学、島根大学、岡山大学、広島大学、山口大学、徳島大学、愛媛大学、九州工業大学、鹿児島大学

令和4年度(第18回)運営協議会議

## 高専卒業・修了後の進路(2)

### 令和3年度専攻科修了生の就職・進学状況

専攻名	修了者数	就職者数	進学者数	その他	求人倍率
生産工学専攻	6名	5名	1名	0名	1.2280
生物応用化学専攻	7名	6名	1名	0名	7.767
電子工学専攻	10名	7名	3名	0名	9.386
計	23名	18名	5名	0名	9.650

#### 就職先

練NSD、NTTコムウェア株、昭和電工株、住友化学株、住友共同電力株、住友金属山形株、東和薬品株、日東電工株、日本エイアンドエー株、深江化成株、三井金属製錬株、三菱電機株通信機製作所、三菱ケミカルエンジニアリング株 他

#### 進学先

北陸先端科学技術大学院大学  
 奈良先端科学技術大学院大学  
 東北大学大学院  
 筑波大学大学院  
 広島大学大学院

令和4年度(第18回)運営協議会議

## 高専卒業・修了後の進路(3)

### 令和3年度卒業生及び修了生の地域別就職状況

	新居浜市内	愛媛県内 (新居浜市以外)	四国 (愛媛県以外)	関西	関東	その他	計
本科	27名	19名	8名	35名	26名	12名	127名
割合(%)	21.3	15.0	6.3	27.5	20.5	9.4	100.0
専攻科	6名	0名	0名	3名	6名	3名	18名

### 令和2年度卒業生及び修了生の地区別就職状況

	新居浜市内	愛媛県内 (新居浜市以外)	四国 (愛媛県以外)	関西	関東	その他	計
本科	36名	22名	10名	29名	40名	14名	151名
割合(%)	23.8	14.6	6.6	19.2	26.5	9.3	100.0
専攻科	3名	0名	3名	1名	7名	0名	14名

令和4年度(第18回)運営協議会議

## 新型コロナウイルス感染症対応(1)

令和4年度はwithコロナを意識した部分的規制緩和を実施

- 新型コロナウイルス感染症に関する対策本部の設置(令和2年2月25日)適宜、対策本部会議を開催(累計69回開催(令和5年1月20日現在))県内社会及び学内の感染状況確認と情報共有、学内方針の決定を行う
- 遠隔授業の実施  
令和4年7月19日～7月22日 ※第1回目は令和2年5月11日～8月4日  
・オンデマンド型を基本とする遠隔授業を実施  
・学生の受講環境整備のため、PC・ルーターの貸出を実施  
・対面授業中は、登校不安を抱える学生や渡日できない留学生を対象に遠隔授業配信を継続し、学修機会の確保に努めた  
・オンラインや電話を活用した学生相談の継続
- イベントの開催  
新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みながら、対策(縮小、分散などを含む)を万全し、対面にて開催した。  
また、参加できなかった中学生等に向けて、本校Webサイト上へ動画を掲載した。

令和4年度(第18回)運営情報発表

## 新型コロナウイルス感染症対応(2)

◆基本的な感染予防対策の徹底◆

- 学生
  - ・授業時間割の特別措置(令和2年度から)(昼食時間を延長し、食堂等利用を分散させることによる3密回避)
  - ・黙食の指導、学生・学食食堂の対策(座席数減、パーティションの設置)
  - ・手指消毒のためのアルコール消毒液の設置
  - ・サーマルカメラ設置(玄関)、各教室への空気清浄機の設置
  - ・次亜塩素酸水生成機の設置(保健室)、オゾン発生装置の設置、教室等利用後の消毒の徹底
  - ・マスク着用指導(夏季は熱中症予防指導含む。熱中症対策のため補給用水分の提供)
  - ・遠隔授業の提供及びサポート
  - ・毎日の検温を基本とした体調管理の徹底
  - ・抗原簡易キットを用いた学内での検査体制の整備(寮生希望者限定)
- 教職員
  - ・飛沫ガードパーティション設置(技術室ほか制作)
  - ・Microsoft Teamsを用いた会議・研修等オンライン化
- その他
  - ・足踏み式アルコール噴霧器15台の設置(学生制作)
  - ・公用車にパーティション設置

令和4年度(第18回)運営情報発表

## 学生・教員の活躍

### ホームページにて学生・教員の活躍を多数掲載

【8/19～21】全国高等専門学校体育大会卓球競技の男子ダブルスで優勝しました！！

全国高等専門学校体育大会(卓球)において、機械工学科5年 安藤 雅人さんと電子制御工学科4年 山本 翔太郎さんが、男子ダブルスにて優勝を果たしました。

【11/3】ISSN International Best Researcher Award 2022を受賞

生物応用化学科 堤 主計 教授が、International Society for Scientific Network (ISSN) からISSN International Research Awards 2022 (INTERNATIONAL BEST RESEARCHER AWARD)を受賞しました。  
科学技術全般に関する国際的な進展において、顕著な貢献が認められた研究者へ贈られる賞です。

詳細はHP【最近の出来事・話題コーナー】

令和4年度(第18回)運営情報発表

## 科研費・外部資金取得の状況

### 科学研究費(直接経費) 配分額推移(R1～R4)

年度	配分額合計	採択件数
R01	10,000,000	10
R02	13,000,000	13
R03	14,000,000	14
R04	16,000,000	16

### 科研以外の外部資金(直接・間接経費合計) 獲得額推移(R1～R4)

年度	獲得額合計	獲得件数
R1	28,000,000	45
R2	25,000,000	38
R3	33,000,000	40
R4	37,000,000	43

令和4年度(第18回)運営情報発表

## 協定の締結(1)

### 伊予銀行

締結日: 令和4年9月13日(火)

- (1)産学官連携の推進に関する情報交換および支援
- (2)地域課題解決、および地域活性化のための連携
- (3)ものづくりのための連携
- (4)人材の交流と育成の支援
- (5)その他本連携協力協定の目的を達成するために必要な事業の5項目において、両者が連携

### 愛媛県・弓削商船高専

締結日: 令和4年10月20日(火)

- (1)地域産業の振興に関すること
- (2)産業人材の育成に関すること
- (3)教育の充実に関すること
- (4)まちづくりに関すること
- (5)防災に関すること
- (6)その他、連携の推進が必要な事項に関すること

の6項目において、三者が連携

令和4年度(第18回)運営情報発表

## 協定の締結(2)

### 鬼北町

### 宇和島市

締結日: 令和4年12月22日(木)、23日(金)

- (1)産業及び地域の活性化に関すること
- (2)人材の育成に関すること
- (3)教育・文化の振興に関すること
- (4)その他、連携協力が必要な事項に関すること

の4項目において、両者が連携

### ポリテクニクSTMI ジャカルタ (学術交流協定)

締結日: 令和4年12月1日(木)

両機関は、相互に利益をもたらす教育、その他の活動の機会を提供する学術活動を促進するための協調体制の設立をめざす。これには以下の事項が含まれる。

- (1)学生及び教職員の交流
- (2)共同研究
- (3)学術的事項の交流

令和4年度(第18回)運営情報発表

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 創立60周年記念事業

### 1. 学内向け理事長講演

令和4年4月5日、創立60周年記念事業として、  
国立高等専門学校機構 谷口理事長による講演を配信

令和4年度(第18回)運営協議会誌

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 創立60周年記念事業

### 2. 創立60周年記念講演会

(1) 日時：令和4年11月7日  
(2) 場所：新居浜市民文化センター大ホール

①基調講演：持続可能な社会の構築に向けて～若者が夢を抱ける社会  
長岡技術科学大学 学長 鎌土重晴氏

②最近の新居浜高専の活動から

- ・新居浜高専の特色ある教育の取組～  
地域の実践的人材育成を目指して  
電気情報工学科 教授 加藤 克己 氏
- ・国立高専における「究極のものづくり教育」  
としての人工衛星開発  
電気情報工学科 准教授 若林 誠 氏
- ・地域に根差したAI応用研究  
電気情報工学科 准教授 加藤 茂 氏
- ・正岡子規と森盲天外～愛媛の先人に導かれて  
一般教養科 准教授 沼田 真里 氏

令和4年度(第18回)運営協議会誌

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 創立60周年記念事業

### 3. 新居浜高専基金

基金の目的  
＜運営支援事業基金＞

- (1) 教育・研究推進等支援事業
- (2) 地域連携支援事業
- (3) 国際交流支援事業
- (4) キャンパスの環境整備事業
- (5) その他目的の達成に必要な事業

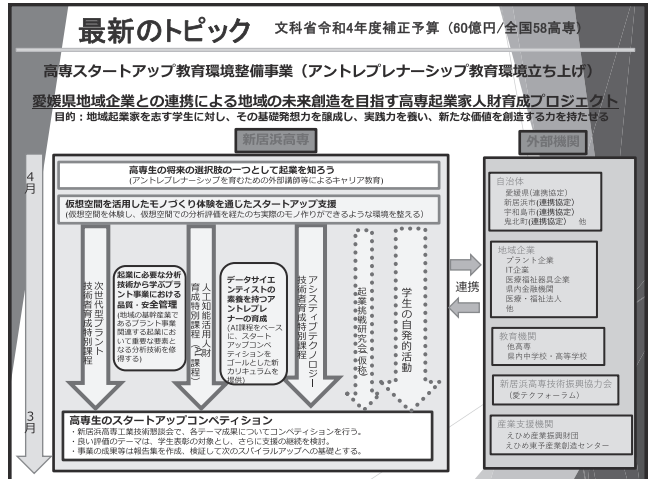
＜学生修学支援事業基金＞

- (1) 授業料、入学金又は寄宿料の全額又は一部の免除その他学生等の経済的負担の軽減を図る事業
- (2) 学費を貸与し、又は給付する事業
- (3) 教育上の必要があると認められた学生等による海外への留学に係る費用を負担する事業

### 4. これからの予定

- (1) 創立60周年記念植樹 (3月3日)
- (2) 創立60周年記念誌 (今年度中に発行予定)

令和4年度(第18回)運営協議会誌



技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

技術で羽ばたけ  
世界へ未来へ  
～新居浜高専～

令和4年度(第18回)運営協議会誌



第17回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応状況について

(令和3年度第17回運営会議資料より抜粋)

	委員からの意見	対応状況
1	志願者について	
	令和2年度から3年度の志願者数が減少した理由について、中学生数の減少とは相容れていないようだが何か分析されていることはあるのか。	中学校への聞き取り調査から、志願者数の減少は中学生数の減少に加えて、新型コロナの影響があると考えている。高専はものづくりの魅力伝える体験型イベントを重視しているが、コロナ禍のオンラインPRでは実体験してもらうことができず、十分でなかったことが大きな原因と分析している。令和4年度は中学3年生に限るなどの制約はあったものの体験型イベントを実施できた。そのためか、令和5年度入試では志願者数がかなり回復した。
	在校生のほとんどが県内の出身者だということだが、新居浜高専では、過去も同じような比率なのか。	在校生のうち県内出身者の比率は年度によって幅はあるが92±3%程度の範囲にあって過去もほぼ同じ比率である。県外は徳島県がもっとも多く、次いで香川県、広島県の順である。徳島県は三好地区、香川県は観音寺市・三豊市の中学校に入試PRのために訪問している効果と考えている。徳島県三好地区は他高専に比べて距離が近いことに加えて、ほぼ毎年志願者がいる中学校が7校ほどあり、ルートができていることも要因と考えられる。
	愛媛県内の少年少女発明クラブは、砥部、松山、今治、新居浜にあり、新居浜市以外のクラブでも高専に行きたいと言う子供たちが多くと考えられるため、中予地域の志願者を増やすために、松山の入試コーディネーターが発明クラブを訪問することを提案する。	県内の発明クラブのいくつかに連絡先の確認などを行った。このうち松山地区の発明クラブに対して入試コーディネーターに問い合わせをさせていただいたが、本校の活動に対してあまり良い反応は得られなかった。そのため、現状では積極的な行動に移すのは時期尚早と考え、連絡先などの情報収集に留めている状況である。
	コロナが少しでも明けたら国領祭の復活をお願いしたい。	国領祭は、感染状況を考慮し学生・家族限定で開催した。完全復活へ向けての一步を踏み出した。
2	人材育成について	
	DXを実現するためのプランの柱の一つである人材育成について、推進会議を設立し高専の先生方にも参加をいただいている。今後IT人材バンクの創設にも取り組んでいくために教育機関との連携が欠かせないので協力をお願いしたい。	愛媛県官民連携IT人材育成コンソーシアムの構成員として、愛媛県のIT人材育成・確保に関する県施策に関して協力している。また、四国サイバーセキュリティネットワークの会員としてもDX with Cybersecurityに必要な人材に係る環境整備に協力している。新居浜市IoT推進ラボ実施事業ワークショップと今後も連携していきたい。
	高専入学に際して心の弱い学生が今後増えてくると思うので、引き続き多様な人材によるメンタルケアをお願いしたい。	昨年と同様、多様な人材による充実したメンタルケアを行っている。さらに学生同士が支えあうピアサポートを、学生会保健局が積極的に推進した。

3	小・中学校との連携について	
	新居浜市内の小中学校では毎月一回の割合でいじめ調査を実施している。子どもの変容を捉えるという事もあるため、高専でもできれば頻繁にいじめ調査などを実施してほしい。	いじめ調査については、回数を増やすことはしなかった。保健室や学生相談室が十分に機能しており、調査の前に概ね問題を把握できているという現状がある。アンケート調査は多く、学生の負担も考慮して、昨年と同じ回数で行った。
4	就職について	
	県内定着率を高めるために、令和4年度は新たに高専のOB、OGを活用して現役学生に対する県内就職への興味を高めるような取り組みを導入したいと考えているため、引き続き協力をお願いしたい。	今年度、東予地方局の東予東部ものづくり次世代人材確保対策協議会と連携して11月に東予東部企業17社の出張講座を3、4年生対象に実施した。また、3月に東予東部企業3社による1dayインターンシップを予定している。OB、OGによる県内企業説明会は、4年生対象に1学科平均6件であった。さらに11月に主に県内企業に就職した卒業生による講話を1・2年生対象に実施した。
	新居浜市内の事業所の人材の確保は、喫緊の課題となり何年も経過している。市内の事業所への就職が一人でも多くなるように高専にも配慮をお願いしたい。	4、5年開講の次世代型プラント技術者育成特別課程に「プラントエンジニア・コーオペ実習」という科目を設け、従来のインターンシップとは別に地元企業での実習を行っている。これを契機に地元での就職に対して学生の意識が高まることを期待している。
5	地域連携及び社会貢献について	
	新居浜市では高専の力を借りて技術開発等をしていきたいと思っている。そこで新居浜高専では、どのような研究開発をしていて、これまでどのように実用化してきたのかを大いにPRをして欲しい。また、新居浜市では共同研究開発等に補助金を支給する制度があるので活用してほしい。	従前から新居浜高専の研究シーズを本校ホームページ上で公開しているが、より積極的にPRすることを目的として、紙媒体での「研究シーズ集」冊子も作成することとした。補助金制度の活用については、市内企業による「新居浜市創造型研究開発支援事業費補助金事業」に共同研究先として参画している。
	現在、非常に大きな課題となっているカーボンニュートラルに向けて、どんなことを取り組んでいるのか、あるいは取り組もうとしているかを伺いたい。	カーボンニュートラルについては各授業に関連する内容を取り入れている。5年全学科開講「環境と人間」では、5学科の教員がオムニバス形式で例えばCO <sub>2</sub> が出ない発電・自動車などの技術、植物の炭素循環の役割など幅広く講義を行っている。それ以外の授業でも、例えばバイオマス利用などのように各専門分野それぞれの視点で取り入れている。また、小中学生向けの出前授業の中でも持続可能社会の実現に向けたテーマを設定している。消費を抑える方向で、本校における電力消費量の把握、教員会での共有と省エネ・節電の呼びかけ等を継続的に行っている、施設整備という観点からエネルギー変換効率の機器導入を進めている。

技術で世界へ未来へ

# 教育に関する事項

教務主事 衣笠 巧

令和4年度(第18回)運営協議会

技術で世界へ未来へ

# 本科教育に関する報告内容

今年1年の取り組み

1. 学生に対する教育
2. FD, 授業改善
3. 入試広報

これからの取り組み

1. 質保証重点6項目の推進

令和4年度(第18回)運営協議会

技術で世界へ未来へ

## 1. 学生に対する教育


### ■ 本科インターンシップ

学習内容と実社会の関係を学び、職業適性・興味関心・自覚のきっかけとする

**企業・大学などでの研修**

e-ラーニング, 安全体感	
実地研修	予定通り実施 26名 (R3:50名)
予定通り実施	240名 (R3:56名)
オンラインに変更	9名 (R3:40名)
中止	14名 (R3:122名)
オンライン研修	
予定通り実施	19名(全員) (R3:56名)

VR安全体感 (階段の危険)



令和4年度(第18回)運営協議会

技術で世界へ未来へ

## 1. 学生に対する教育

### ■ 数理データサイエンスAI教育プログラム認定

数理データサイエンスAIへの関心を高め、適切に理解・活用する基礎的能力を育成するため、情報教育センターの協力により、文部科学大臣から認定

身に付けることのできる能力(リテラシーレベル)

- ・社会変化や情報技術の発展に伴った最新のセキュリティとモラルの知識を実践を通じて修得することができ、これらを考慮してデータを適切に取り扱うことができる
- ・測定装置やセンサーから得られるデータを専門分野の知見を用いて分析し、適切な評価や考察ができる。また、その活用についての論考ができる


プログラム修了条件

平成30年度～令和3年度入学生

1年「情報リテラシー」、各学科の実験実習・情報処理科目

令和4年度以降入学生

1年「情報リテラシー」、1年「データサイエンス」(新設)



令和4年度(第18回)運営協議会

技術で世界へ未来へ

## 1. 学生に対する教育

### ■ 1年全学科「リベラルアーツ演習」新設

SDGsを題材に、明確な答えのない問題を他者と協力しながら取り組むことで、コミュニケーション能力や問題解決能力を伸長し、人と人とのつながりの中でしなやかに生き抜く人材を育てるため、グローバル教育センターと協力して設置

**授業内容**


- ・一般教養科目を学ぶ意義について講義する
- ・メンタルヘルスのスキル(アサーション)を通してコミュニケーション能力の向上を図る
- ・少人数のグループでSDGsを題材に世界と日本とのつながりについて調べ、話し合い、発表して、問題解決能力を育む

**科目担当**

国語、社会、外国語、保健体育担当教員

外部講師(臨床心理士、新居浜市国際交流員)

外部講師による授業



令和4年度(第18回)運営協議会

技術で世界へ未来へ

## 1. 学生に対する教育

### ■ 高専間単位互換制度

全国高専の特徴的な授業を、他高専の学生が主に遠隔授業として受講し、単位を認定する制度

本校の科目を他高専学生が受講

1科目(化学工学4) 2名受講

他高専の科目を本校学生が受講

1科目(SDGs入門) 1名受講

なお、本校の特徴的な科目として特別課程を設置しているが、実習を伴うため遠隔授業では提供が難しいことが課題

- ・次世代型ブランド技術者育成特別課程(PE課程)
- ・アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程(AT課程)
- ・人工知能活用人材育成特別課程(AI課程)

令和4年度(第18回)運営協議会

技術で世界へ未来へ **2. FD, 授業改善**

### ■ 質保証の重点6項目

質保証の重点6項目について

- ① ポートフォリオ教育の実施**  
Step1) 学生よりのポートフォリオ教育を確立している  
Step2) 学生よりのポートフォリオ教育を推進し、発展を遂げている  
Step3) 学生が知識・技能の獲得に努めている
- ② 実験・実習計画の実施**  
Step1) 実験・実習そのものの質を向上させている  
Step2) 実験・実習において、学びを深めている  
Step3) 学生が実験・実習の成果を積極的に発表している
- ③ 分野横断的・学際的能力の育成の実施**  
Step1) 分野横断的・学際的能力を育成し、意識的に行っている  
Step2) 分野横断的・学際的能力を育成している  
Step3) 学生が分野横断的・学際的能力を身に付けている
- ④ データ（CBT等）に基づいた授業改善の実施**  
Step1) CBTなどの活用により、授業の質を向上させている  
Step2) データに基づいた授業改善を実施している
- ⑤ LIPポスター育成の実施**  
Step1) LIPポスターを育成する体制がある  
Step2) LIPポスターを育成している  
Step3) 学生がLIPポスターとして活動している
- ⑥ 学生情報の集約及び共有の実施**  
Step1) 学生情報を集約し、共有する体制がある  
Step2) 教職員で学生情報を共有する体制がある（FD）

学生が自ら成長できる環境の整備および教育の実践

令和4年度(第18回)運営委員会報告書

技術で世界へ未来へ **2. FD, 授業改善**

### ■ ポートフォリオ教育の実施

学生が自分の学習の過程(目標、活動、成果など)を記録する小中学校で開始されたキャリアパスポートを高専で継続する

### e-ポートフォリオの開始

従来紙媒体で実施してきた「年間目標」と「自己申告書」をWebClassで電子化。年度初めと年度末だけでなく、いつでも記録や見返しができる

### 主な入力項目

- ・年間目標とその達成状況(勉強面・生活面)
- ・特別活動・学外研修などの活動状況
- ・学級委員・学生会・寮生会・国領祭執行委員会などの活動状況
- ・部活動・コンテストなどの活動状況
- ・資格試験・検定試験などの受験・取得状況
- ・希望する進路
- ・長所・短所

令和4年度(第18回)運営委員会報告書

技術で世界へ未来へ **2. FD, 授業改善**

### ■ IRを用いた教学マネジメント

教育機関がその教育目的を達成するための管理運営であり、教育機関の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営み

### 教学IR(Institutional Research)

データに裏付けされた教育改善を行う(データ駆動型)ため、必要な情報を収集し、分析を行うことで、より効果的な教学マネジメントを支援する活動

点検・評価運営委員会(委員長 校長)  
教育研究活動・管理運営の点検・評価の方針策定や実施計画などを所掌

点検専門部会  
運営委員会の付託に基づいて点検・評価の実施や報告書の作成など

教学IR室(R5年度より新設)  
教務・入学選抜などに関する学生情報の収集・調査・分析

令和4年度(第18回)運営委員会報告書

技術で世界へ未来へ **3. 入試広報**

### ■ 中学生向け広報誌

広報推進室による大幅見直し

- ・冒頭4ページにマンガ掲載(本校卒業生作)
- ・文字サイズを大きく、イラストを多用
- ・進路情報を1ページに集約し、比較しやすく

全体的にまとまっていて、前年度より読みやすくなった(在校生の聴き取り)

### ■ 地上波CM放映

昨年度、ケーブルテレビから地上波に変更  
放映時期11~1月を今年度7~9月に見直し

令和4年度(第18回)運営委員会報告書

技術で世界へ未来へ **3. 入試広報**

### ■ 入試広報イベント1

エンジニアリングデザイン教育センターによる運営

### 夏季体験学習

8月5日(金)、6日(土) 中3生限定 延べ685名(R1:836名)  
※ 補助学生数 167名

### ものづくりフェスタin松山

8月27日(土)、28日(日) 小4~中3生限定 延べ118名(R1:135名)  
※ 補助学生数 10名

### 学校見学会(オープンキャンパス)

9月24日(土) 中3生限定 延べ222名(R1:276名)  
※ 補助学生数 45名

令和4年度(第18回)運営委員会報告書

技術で世界へ未来へ **3. 入試広報**

### ■ 入試広報イベント2

### 国領祭入試情報コーナー

11月5日(土)、6日(日) 中3生限定 延べ156名(R1:270名)  
特別警戒期間のため縮小開催(学生とその家族に入场制限)

入試問題解説

学科展示

野外ステージ

令和4年度(第18回)運営委員会報告書

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 本科教育のこれからの取り組み

- 質保証重点6項目の推進
  - 学生が自ら成長できる環境の整備及び教育の実践
  - ・教学マネジメント(教学IR)
  - ・ポートフォリオ教育
  - ・実験スキル計測
  - ・分野横断的能力の育成 など

令和4年度(第18回)運営計画発表

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ



技術で羽ばたけ  
世界へ未来へ  
～新居浜高专～

令和4年度(第18回)運営計画発表

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 教育に関する事項

- 専攻科教育に関する一年間の取り組み

専攻科長 香川 福有

令和4年度(第18回)運営計画発表

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 専攻科教育に関する1年間の取り組み

- 入試方法変更(1年目)
  - 入学者数の適正化を図るために、学力1次までの結果を見て学力2次の実施の有無を検討
    - 定員割れの生物応用化学専攻のみ2次募集を実施
- 新型コロナ対応
  - 遠隔授業実施の柔軟化のため、学内Wi-Fiを専攻科全学生に開放
- 起業教育の充実化
  - 愛テクフォーラム関連企業社長の講話など、新に2件実務経験者の講話を追加
  - 次年度に向けて、更に3科目で実務経験者の講話を増やす予定

令和4年度(第18回)運営計画発表

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 専攻科教育に関する1年間の取り組み


- 学生への講演会・国際会議・研究発表会・各種講座の案内の充実化
  - WebClassを用いて案内(1月末までに約50件)
  - 学生が参加した講座の例
    - 韓国の永進専門大学が実施する専門研修会
    - 第16回大学生・高専生のための素粒子・原子核スクール、サマーチャレンジ
    - K-SECセキュリティウインタースクール2022
- 専攻科学生の活躍
  - 第28回ヤングセラミスト・ミーティングin中四国にて「奨励賞」
  - 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会にて「優秀発表賞」「電気学会優秀論文発表賞」

令和4年度(第18回)運営計画発表

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 専攻科教育に関する1年間の取り組み

- これからの取り組み(アフターコロナに向けて)
  - シニア・インターンシップの立てなおし
  - 学生の国際交流イベントへの参加の促進
  - 学生の学会発表の促進



令和4年度(第18回)運営計画発表

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 情報教育センター 令和4年度の取組み

情報教育センター長  
栗原 義武

令和4年度(第18回)運営協議会

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 今年度(令和4年度)の取組み

- グループウェアの導入
  - ・教職員のスケジュール管理、会議の日程調整
  - ・業務の効率化を図る
- 授業等における教育関係の取組み
  - ・継続して活動中「K-SEC サイバーセキュリティ人材育成事業」
  - ・新科目「データサイエンス」(教務委員会)と協力・連携
- 授業以外での情報システム関係の取組み
  - ・高専統一基幹ネットワークシステムの更新(9月)完了
  - ・学術情報ネットワーク(SINET6)アクセス回線への切替
  - ・校内無線LAN拡充計画(設置予定場所、機器・工事見積)

※コロナ禍の影響で、可能な範囲の活動を実施

令和4年度(第18回)運営協議会

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 情報セキュリティ教育

- 愛媛県官民連携IT人材育成支援コンソーシアム
  - ・5月27日設立総会
  - ・高度技術教育センターとの連携 => 全学的取組みへ
  - ・教務委員会との連携 => 新科目「データサイエンス」  
情報教育センター副センター長2名 = 教務委員  
情報教育推進部門：本科1年生 全学科 受講
- 四国サイバーセキュリティネットワーク
  - ・12月7日キックオフ会合
  - ・関連イベント：サテライト SEC道後 2022  
6月30日、7月1日 視聴覚教室 => 教職員と学生参加

令和4年度(第18回)運営協議会

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## これからの取組み

- 情報セキュリティ教育の継続  
警察庁・愛媛県警察、愛媛県等と連携
- 情報教育センター棟改修工事 (R5年度)  
第1演習室の仮運用→第1会議室
- 学内Web・メールホスティングサービス  
R5年夏頃予定
- 校内無線LAN整備拡充計画の実現化  
高専統一基幹ネットワークシステムの補完  
実験室、演習室、体育館、食堂、会議室など

令和4年度(第18回)運営協議会

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ



技術で羽ばたけ  
世界へ未来へ  
～新居浜高専～

令和4年度(第18回)運営協議会

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 学生支援に関する事項

学生主事  
保健管理センター長  
野田 善弘

令和4年度(第18回)運営協議会

技術で世界へ未来へ **学生支援**

## 学生支援関係報告

- ① イベント開催状況
- ② 学生相談・メンタルヘルス
- ③ 安全な生活の確保

令和4年度(第18回)運営計画

技術で世界へ未来へ **学生支援① イベント開催状況**

予定行事	月	R2	R3	R4	
学外研修	5	×	×	△	宿泊なし、近郊地日帰りバス旅行、一部校内で実施
春季クラスマッチ (球技大会)	5	×	×		R4は、体育祭に変更・企画せず
四国地区高専体育大会	7	×	○	○	R3・R4は予定通り開催
夏の高専ソコチカラ (文化発表会)	7	×	×	○	R4は観客は家族に限定
全国高専体育大会	8	×	○	○	R3は期日を変更して開催。R4は四国地区で予定通り開催
四国地区高専ロボットコンテスト	10	×	△	○	R3はオンライン開催。R4は集合対面開催 (於本校体育館)
体育祭	11			○	運動会を開催、クラスマッチに比べて盛況
国領祭 (学園祭)	11	×	×	○	有観客、家族に限定
四国地区高専総合文化祭	12	×	○	○	R3は無観客日帰り。R4は有観客 (一般可) 日帰り
冬季クラスマッチ (球技大会)	1	○	○		R4は、体育祭に変更・企画せず
春の高専ソコチカラ (文化発表会)	2	○	×	○	R2は無観客&配信。R4は有観客、家族に限定
企業説明会	3	△	△	△	オンデマンド

令和4年度(第18回)運営計画

**イベントの様子と学生の活躍**

四国ロボット出場  
集合開催は3年ぶり

第57回全日本高等学校体育大会  
第18回全高専専門学校体育大会 卓球地区

3年ぶり 1~4年学外研修

全国高専体育大会 卓球ダブルス  
優勝!

県高校総体に参加  
柔道部 (女子個人) インターハイ出場

3年ぶりに国領祭 (文化祭) を開催

初の試み 体育祭

高専ソコチカラ・夏  
3年ぶり開催

令和4年度(第18回)運営計画

技術で世界へ未来へ **学生支援② 学生相談・メンタルヘルス**

**学生支援体制 (保健管理センター)**

様々な資格をもつ学外カウンセラーを雇用、さらに外部機関との連携し、多様な問題に対応

臨床心理士・公認心理士  
産業カウンセラー  
教育カウンセラー  
社会福祉士  
精神科医  
スクールソーシャルワーカー

新居浜市教育委員会発達支援課・  
人権教育課との連携

令和4年度(第18回)運営計画

技術で世界へ未来へ **学生支援② 学生相談・メンタルヘルス**

**ピア・サポート体制の確立へ向けて**

- 各クラスの保健委員をピアサポーターに
- 学外カウンセラーに指導を受けながらスキルアップ
- ピアサポート普及のためポスターを作製し、クラスで報告

ピアサポーターが作製したポスター

令和4年度(第18回)運営計画

技術で世界へ未来へ **学生支援③ 安全な生活の確保**

**交通事故の防止・啓発**

- 登校時の自転車ルール・マナーの呼びかけ
- 道路交通法の改正の周知  
大人も子供もヘルメット着用は努力義務
- 警察による交通安全指導

**SNSの不適切使用について啓発**

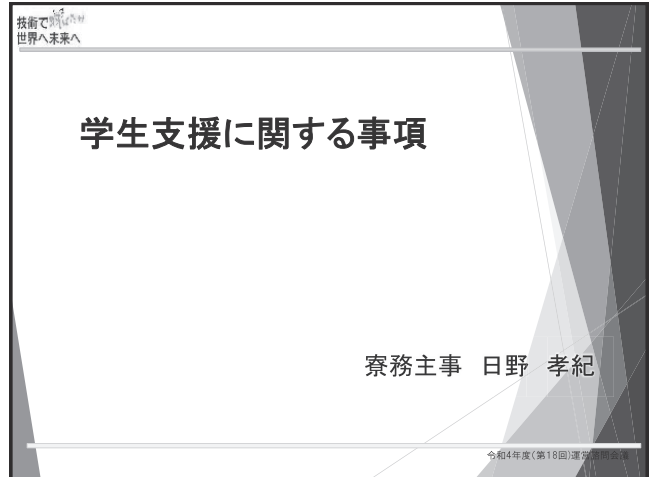
- 主事講話・特別講義

**不審者対策 → 校内監視カメラの増設**

**新型コロナ感染症対策**

- 愛媛県の対策に準じて実施

令和4年度(第18回)運営計画



技術で世界へ未来へ

### 新居浜高専 学生寮

令和4年8月1日現在

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	専攻科生	合計
57	60	53	55	50	7	282
44	45	38	39	39	7	212
13	15	15	16	11	0	70

令和4年度(第18回)運営説明会

技術で世界へ未来へ

### 寮生の出身地域

R4.5.1現在  
( )女子内数

愛媛県 199(40)  
 新居浜市 3(1)  
 四国中央市 13(4)  
 西条市 11(3)  
 今治市 46(10)  
 松山市 48(10)  
 東温市 10(1)  
 伊予市 8(1)  
 伊予郡 6(1)  
 大洲市 19(4)  
 喜多郡 4(0)  
 八幡浜市 7(1)  
 西予市 4(1)  
 宇和島市 12(2)  
 南宇和郡 7(1)  
 北宇和郡 1(0)

香川県 14(9)  
 徳島県 39(14)  
 高知県 1(1)

四国外 31(7)  
 広島県 9(1) 島根県 1(0) 山口県 1(0)  
 宮崎県 1(0) 兵庫県 1(1) 大阪府 4(1)  
 奈良県 1(0) 滋賀県 1(0) 愛知県 2(1)  
 長野県 1(1) 岐阜県 1(0) 栃木県 1(1)

外国人留学生 7(2)

令和4年度(第18回)運営説明会

技術で世界へ未来へ

### 学寮に関する今年1年の取組み

- **感染症対策**
  - ・ゾーニング (一時的な隔離・待機・静養)
  - ・新しい学寮生活様式の再認識
  - ・改修後の女子寮運用
  - ・学寮定員の見直し
  - ・テイクアウト訓練
- **生活環境充実**
  - ・食堂、男子寮改修計画案
- **情報公開・共有**
  - ・学寮HP入寮希望者へのメッセージ更新
  - ・学寮食事の保護者試食
  - ・寮生集会や保護者総会のハイブリッド・オンデマンド開催

令和4年度(第18回)運営説明会

技術で世界へ未来へ

### 学寮に関するこれからの取組み

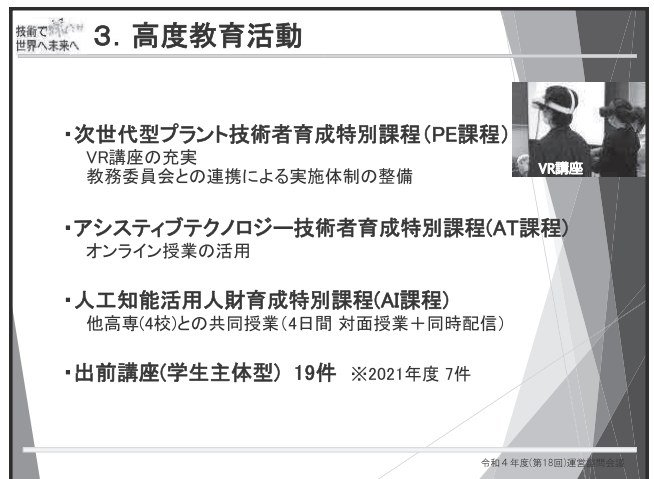
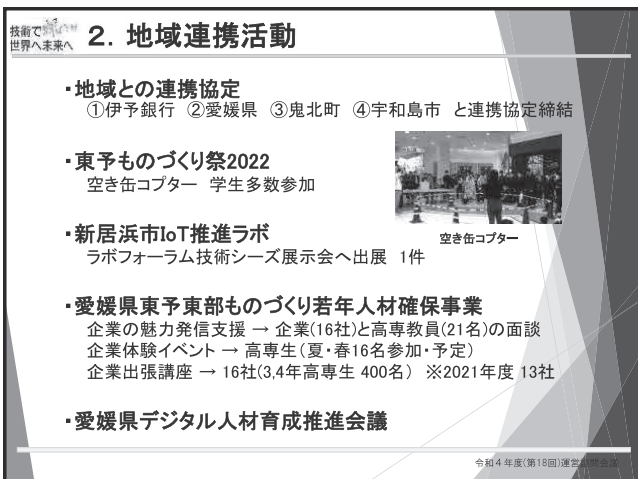
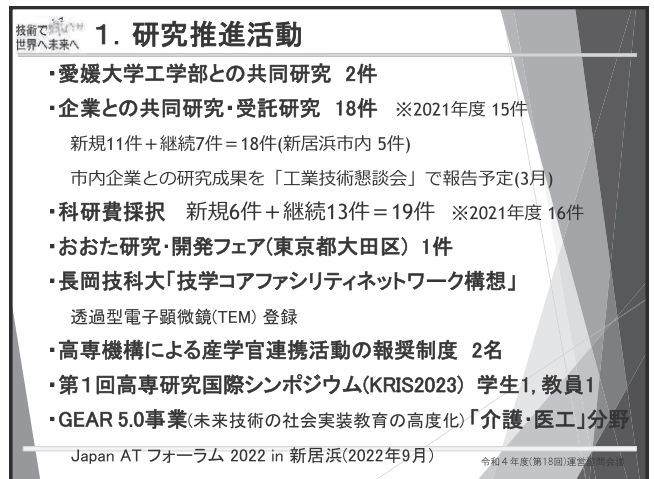
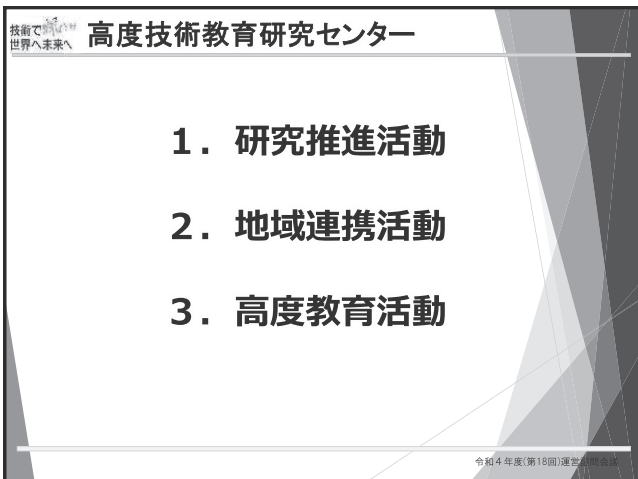
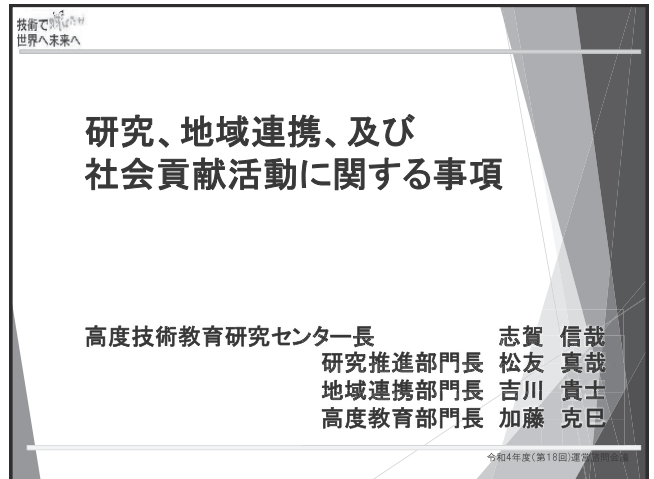
- **男子寮改修計画**…R6年度概算要求
- **食堂改修計画**…要収容人数の検討
- **ドライ化対応調理器具への更新**…学内予算(学寮再配分)にて複数年計画
- **入退出や欠食についてICT化**…学寮保護者会費と学内予算(学寮配分)にて整備を計画
- **宿直業務の外部委託の拡大**…学内予算(学寮配分)と機構高度化推進費

<R4後期基準にした削減実績> A・B・C宿直 約300人日/後期  
 B宿直の祝日・土日を外部委託:約2割減(一昨年度~)  
 B宿直の平日3日追加:さらに約2割減(本年度~)

- **防犯講座**


令和4年度(第18回)運営説明会





技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## これからの取り組み

- 1. 研究推進活動**  
外部資金獲得の推進  
(科研費・各種助成金・企業等との共同研究)
- 2. 地域連携活動**  
伊予銀行、愛媛県、鬼北町  
宇和島市との連携推進  

- 3. 高度教育活動**  
特別課程の実施体制のさらなる見直しと改善  
地域課題解決PBLや起業教育の追加・導入検討

令和4年度(第18回)運営計画書

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ



# 技術で羽ばたけ 世界へ未来へ ～新居浜高専～

令和4年度(第18回)運営計画書

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 研究、地域連携、及び 社会貢献活動に関する事項

エンジニアリングデザイン教育センター長  
松田 雄二

令和4年度(第18回)運営計画書

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## エンジニアリングデザイン教育センター

- ・センター員(教員)：8名
- ・技術室(技術職員)：14名

ものづくり 工房	あかがね 工房	アイデア通り 工房
-------------	------------	--------------

主な業務

- ・各学科の実験・実習及び卒業研究等の**教育研究支援**に関する事
- ・**ものづくり課外活動の支援**に関する事
- ・**地域連携**による技術交流・支援に関する事
- ・機械及び材料実習工場の**管理・運営**に関する事
- ・アイデア通り工場の**管理・運営**に関する事
- ・技術室の業務目標・計画及び**評価**に関する事
- ・**技術室職員の研修**計画に関する事
- ・その他**ものづくり教育及び地域等との技術交流の推進**に関する事

令和4年度(第18回)運営計画書

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ  
～新居浜高専～

## 「高専生の学びを高める キャンパス創造プロジェクト」 Creative Campus, Do It Ourselves

■事業概要

持続可能な開発目標(SDGs)を常に意識した「ものづくり」を実践できるキャンパスを創成する。

本校では、Eデザインセンターが管轄する「ものづくり拠点」が3か所あり、それぞれ「**ものづくり工房**」「**あかがね工房**」「**アイデア通り工房**」と称す。その内「**ものづくり工房**」について、ものづくり拠点の存在感、そこに集う学生の充実感、地域からの来校者のものづくり現場のインパクトに対して、特色あるキャンパスづくりを、一般の校舎と識別した存在感を持たせるために、外壁にメッセージを組み込んだカラーリング塗装による創成整備を行う。

■事業参加者

事業統括：エンジニアリングデザイン教育センター長  
実施学生：機械工学科4年生43名、書道部9名、美術部14名  
事業サポート：総務課施設係  
技術指導：四国竹林塗装工業

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ  
～新居浜高専～

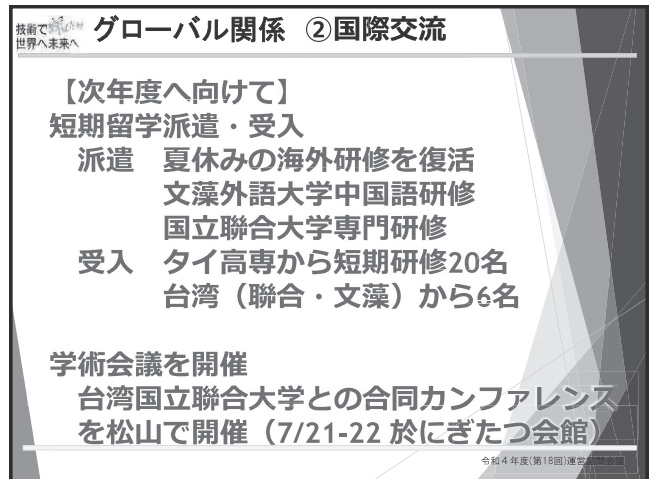
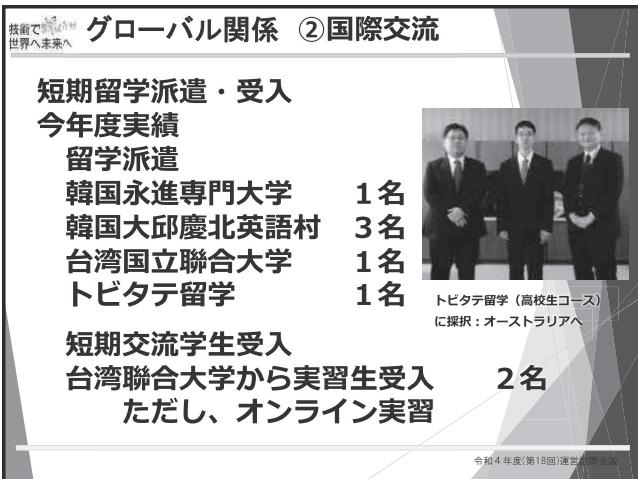
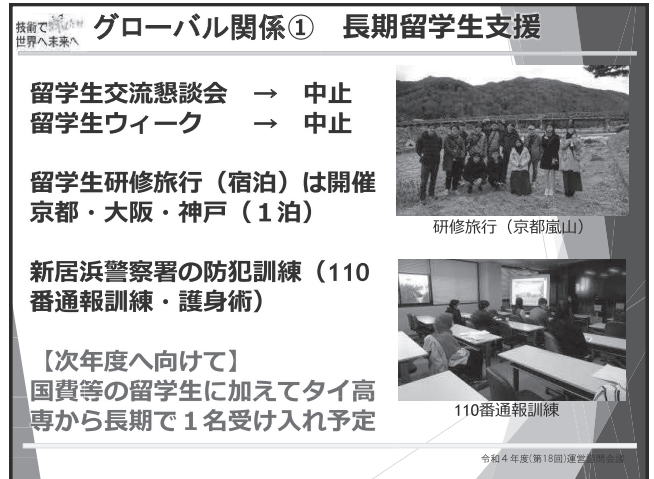
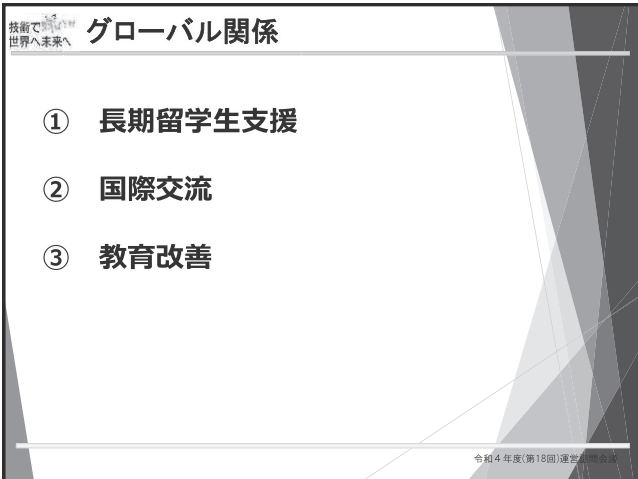
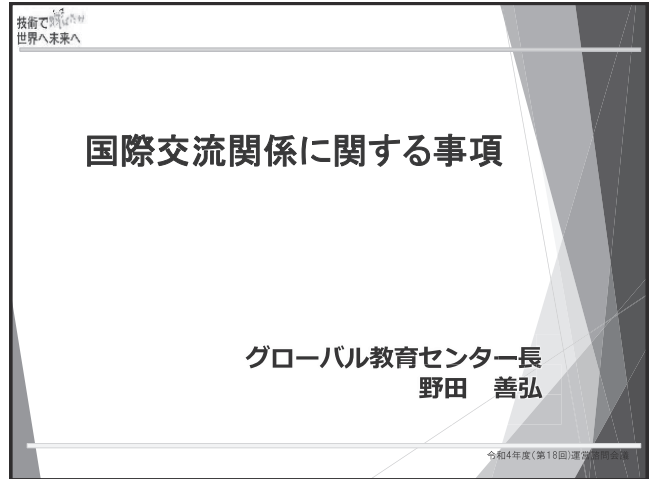
## 「高専生の学びを高める キャンパス創造プロジェクト」 Creative Campus, Do It Ourselves



デザイン検討  
プレゼン

塗装業者による  
技術指導






技術で世界へ未来へ

## グローバル関係② 国際交流

### 海外高等教育機関との学術交流

- ポリテクニクSTMIジャカルタ：MOUを締結
- 台湾文藻外語大学応用華語文系：実習同意書を策定

【次年度へ向けて】  
台湾文藻外語大学とのMOU締結へ  
韓国永進専門大学と第4ブロックの協定締結へ



ポリテクニク (ジャカルタ) にて

令和4年度(第18回)運営協議会誌

技術で世界へ未来へ

## グローバル関係 ③教育改善

【今年度実績】

- ・リベラルアーツ演習
- ・オンライン英会話  
DMM英会話を高専全体で契約→受講料割引
- ・オンライン中国語会話  
台湾国立聯合大学の実習をオンラインで

【次年度へ向けて】  
グローバル教育センター数値目標の達成へ  
TOEIC 400点 派遣年間50名 受入年間10名  
※この数値目標は2026年度達成を目指して昨年度末に決定  
TOEIC 400点は5年生の平均スコア（現状は340点程度）

令和4年度(第18回)運営協議会誌

技術で世界へ未来へ



# 技術で羽ばたけ 世界へ未来へ ～新居浜高専～

令和4年度(第18回)運営協議会誌

## 男女共同参画推進室

男女共同参画推進室室長  
白井 みゆき

### 男女共同参画推進室

- ▶ 平成24年10月に発足
- ▶ 推進体制  
各科教員7名、総務課長、学生課長（9名中女性1名）
- ▶ 推進目標  
学生及び教職員の意識啓発  
ワーク・ライフ・バランスのための環境整備  
校内のニーズの把握
- ▶ 新居浜市女性活躍推進事業所に再度認定（2022.10～）  
全国ダイバーシティネットワーク組織に加盟（2019.10～）

学生総数（女性内訳）	1100名（301名、27% 全国高専平均 22%）
常勤教員総数（女性内訳）	76名（7名、9% 全国高専平均 12%）
常勤職員総数（女性内訳）	42名（14名、33% 全国高専平均 32%）

### 令和4年度の取り組み

#### 学生への意識啓発

- 1、2年生対象に、オンデマンド方式で講義を視聴 【12月】  
「生命(いのち)の安全教育」

#### 教職員への意識啓発

- 教職員対象：教職員支援機構提供（オンライン） 79名受講 【12月、1月】  
「生命(いのち)の安全教育」教材、指導の手引き等研修」

## 令和4年度の取り組み

### ■ 新居浜市女性活躍推進事業所として再認定の紹介記事 (新居浜市HP)



## 令和4年度の取り組み

### 環境整備, ニーズ・実態把握

- 第7回第4ブロック(中四国地区13高専)男女共同参画推進担当者協議会参加 【2月】
- 校長と女性教職員の懇談予定 【3月】
- 女性教員比率向上を図るため、女性優先公募を実施

## 今後の課題

- 取組みの検証を行いながら、推進活動を継続する
- ワーク・ライフ・バランスに関する各種制度の周知
- 研修会等を実施し、男女共同参画意識の浸透を図る
- 地域との連携体制の維持(「ひめボス(イクボス)宣言」の検討)
- ニーズを把握し対応策を検討する (育児・介護に関する実情アンケートの検討など)



令和4年度(第18回)運営協議会誌

## 自己点検に関する事項

### 第18回運営諮問会議(令和5年3月2日)

副校長(評価担当) 皆本 佳計

令和4年度(第18回)運営協議会誌

## 自己点検に関する事項

### 機関別認証評価

7年に1度受審する外部審査

独立行政法人  
大学改革支援・学位授与機構  
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education



令和4年度(第18回)運営協議会誌

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 自己点検に関する事項

【点検・評価】

- ◆新居浜工業高等専門学校 自己点検・評価
  - 新居浜工業高等専門学校点検・評価実施規則等
  - 新居浜工業高等専門学校点検・評価に関する方針等
  - ▶ 令和3年度 新居浜高専自己点検・評価表等
  - ▶ 令和2年度 新居浜高専自己点検・評価表等
  - ▶ 令和元年度 新居浜高専自己点検・評価表等
  - ▶ 平成30年度 新居浜高専自己点検・評価表等
  - ▶ 平成29年度 新居浜高専自己点検・評価表等
- ◆高等専門学校機関別認証評価（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構）
 

新居浜高専は、令和3年度に独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する高等専門学校機関別認証評価において、同機構が定める高等専門学校評価基準を満たしていると評価されました。

  - 【評価結果】
    - ▶ 高等専門学校機関別認証評価 評価報告書等
    - ▶ 選択的事項に係る認証評価 評価報告書等
  - 【自己評価書】
    - ▶ 高等専門学校機関別認証評価 自己評価書等
    - ▶ 選択的事項に係る認証評価 自己評価書等

令和4年度(第18回)運営協議会誌

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

## 自己点検に関する事項

### 国立高専教育国際標準（KIS）評価を受ける準備

「国立高専教育国際標準（KOSEN International Standard : KIS）」

国際的な教育の質保証の枠組み

高専の本科教育(5年間)の質保証を国内外に対して明示される。

公益社団法人日本工学教育協会  
日本技術者教育認定機構（JABEE）

- 基準 1 学習・教育到達目標の設定と公開
- 基準 2 教育手段
- 基準 3 学習・教育到達目標の達成
- 基準 4 教学マネジメント活動による教育改善

令和4年度(第18回)運営協議会誌

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ



技術で羽ばたけ  
世界へ未来へ  
～新居浜高専～

令和4年度(第18回)運営協議会誌





令和4年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和5年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1. 1 教育に関する事項</p> <p>(1)入学者の確保</p> <p>①-1.1 愛媛県小中学校長会の中学校部会長校を校長と教務主事が訪問し、直接、訪問先校長に本校の教育・入試・進路等について概要説明を行う。</p> <p>①-1.2 令和2年度のオンライン学校説明会で開設した関連ページを改良して、小中学生向けのイベント開催情報をウェブサイトに掲載する。ページレイアウトなどを改善し、より分かりやすい内容となるよう検討する。</p> <p>①-1.3 昨年度YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善について検討する。</p> <p>①-1.4 毎月1回、メールマガジンを発信する。また、イベント等機会あるごとにメールマガジン配信登録の案内を行う。</p> <p>①-1.5 入学年度別志願者状況を作成し、地域における志願者の推移の分析を行い、今後の広報活動に活かす。</p>	<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1. 1 教育に関する事項</p> <p>(1)入学者の確保</p> <p>①-1.1 6月に本校の校長・教務主事が愛媛県小中学校長会の理事校を訪問し、校長と進路指導主事に本校の概要を説明した。</p> <p>①-1.2 令和3年度に作成した入試情報関連のページを改良し、小中学生および保護者などに、より分かりやすい内容に改善した。</p> <p>①-1.3 昨年に引き続き情報発信力の強化のためにYou Tubeによる動画配信の公式チャンネルをホームページ上で一般公開し、適時、動画ファイルを追加・更新した。</p> <p>①-1.4.メールマガジンについては、入試情報やイベント情報などの案内を毎月1回発信している。</p> <p>①-1.5 入学年度別志願状況においては、広報推進室会議資料作成の参考としたほか、効果的な広報活動(進路説明会の際の手持ち資料)に活用した。</p>
<p>①-2 広報推進室を中心に、入学志願者数が前年度を上回るような以下の広報活動を効果的に行う。</p> <p>①-2.1 中学校訪問は、進路指導主事、3年生学年主任等を対象に、本校の概要、特色、入試、進路状況、学寮、必要経費等の説明を行うとともに、志願者等の情報収集を行う。また、中学校主催の進路説明会には必ず教員を派遣し、説明用のパワーポイント資料及び中学生向けのリーフレットに沿った説明を行う。</p> <p>①-2.2 地区別学校説明会では、中学校の校長及び進路指導担当教員を招き、説明会ならではの詳細な資料を用いて説明を行い理解を深めてもらうとともに、各校における進路指導の状況等について情報交換を行う。</p> <p>①-2.3 入試広報イベントとしてはウイズコロナを意識した上で、夏季体験学習、学校見学会(オープンキャンパス)、学園祭における入試問題解説コーナー、ミニキャンパスツアー等を実施する。</p> <p>①-2.4 松山地区の入学志願者増を目的とした、入試広報コーディネータによる広報活動を検討する。</p> <p>①-2.5 新居浜市及び他機関と連携して設立した「東予ものづくり祭実行委員会」の委員として教員を派遣し、各種イベントへの学生参加を通して新居浜高専の魅力を発信する。</p>	<p>①-2 新型コロナウイルスの感染対策を徹底し、規模を縮小したものの3年ぶりに予定していた対面式の入試広報イベントをすべて実施した。</p> <p>①-2.1 感染対策を徹底し、愛媛県全域及び香川県西部地区への中学校訪問を行った。また、中学校主催の進路説明会にも例年通り参加し、中学校訪問を兼ねて説明用のパワーポイント資料及び中学生向けのリーフレットに沿った説明を行い、募集要項の配付を行った。</p> <p>①-2.2 地区別学校説明会は今治地区、東予地区、徳島県三好地区にて校長と教務主事が中学校の校長及び進路指導担当教員を招き、説明会ならではの詳細な資料を用いて説明を行った。また、各校における進路指導の状況等について情報交換を行った。</p> <p>①-2.3 入試広報イベントは、参加者を中学3年生とその保護者に限定し感染対策を徹底した上で、夏季体験学習、ものづくりフェスタin松山、学校見学会(オープンキャンパス)および学園祭における入試問題解説コーナー等を実施した。</p> <p>①-2.4 入試広報コーディネータによる広報活動を行った。</p> <p>①-2.5 「東予ものづくり祭実行委員会」の委員として広報推進室長とイベント担当の教員が参画している。同フェスは11月12日～20日の日程で開催され、パネル展示による広報活動を行った。</p>
<p>②-1.1 中学生向け広報誌「はばたけ!未来へ」を大きく改訂し、一部、漫画なども加え、女子の在校生や卒業生の活躍の様子を多く掲載し、広く女子中学生も含めた広報を行う。</p> <p>②-1.2 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムを開催し、情報の共有・普及を行う。</p>	<p>②-1.1 広報誌「はばたけ!未来へ」では、冒頭ページに漫画による紹介ページを新設した。これに伴い、内容を精査して構成も大幅に変更するなど、中学生の興味を引き、親しみを持って閲覧してもらえるよう工夫した。広報誌は全中学3年生分を中学校訪問の際に持参し、内容を説明するなど広報活動に活用した。また、来年度に向けて内容を大きく改善すべく活動中である。</p> <p>②-1.2 第4ブロック高専女子フォーラムについては、今年度は開催されないこととなった。第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加予定である。</p>
<p>②-2.1 新居浜市国際交流協会と協力して地域と一体となった長期留学生支援を行う。</p> <p>②-2.2 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。</p> <p>②-2.3 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。</p> <p>②-2.4 海外提携校との関係を強化し、さらに新たな提携先を開拓して、短期留学生の受入を促進し、あわせて施設、受入体制を整備を行う。</p>	<p>②-2.1 新居浜市国際交流協会から案内されたイベントに長期留学生が参加し、地域と一体となった交流をしている。</p> <p>②-2.2 英文併記の学校案内を作成するなど、広報活動を行った。</p> <p>②-2.3 今後の予定として研修旅行や交流行事(7月に企画したが感染拡大により延期)を企画しているので、発信紹介する予定である。</p> <p>②-2.4 インドネシアポリテクとの協定へ向けて準備中。台湾の国立聯合大学とオンライン交流を行うなど、関係の強化に務めた。</p>
<p>③.1 アドミッションポリシーにふさわしい人材を選抜できるよう推薦選抜及び学力検査を適切に実施する。</p> <p>③.2 これまでの入学選抜方法(推薦・学力)による学生の入学後の成績などを調査して選抜方法の検討・改善の資料とするとともに、入学選抜改革に関する実施方針に柔軟に対応できるように選抜実施体制を整える。</p>	<p>③.1 8月31日(水)に編入学者選抜(9月25日(日)に追試験)をアドミッションポリシーに対応した選抜方法で実施した。本科入試については、令和5年1月21日(土)に推薦選抜をアドミッションポリシーに対応した選抜方法で実施した。また、2月4日(土)に推薦選抜追試験、2月12日(日)に学力選抜(2月26日(日)学力選抜追試験)を実施する予定である。</p> <p>③.2 本科推薦選抜の方法について調査・検討を開始した。</p>

## 令和4年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和5年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p><b>(2)教育課程の編成等</b></p> <p>①-1.1 産業構造の急速な変化や技術革新、地域のニーズ等に対応できる技術者を養成するため、本科・専攻科に設置した新しい教育プログラムの充実や学科等の改組について、引き続き検討する。</p> <p>①-1.2 運営諮問会議を開催し、地域のニーズ等について外部有識者から意見を伺い、本校の運営に活かす。</p> <p>①-1.3 企業の求める人材や高専卒業生の評価等について企業へのアンケート調査を実施し、教育課程の編成や授業実施方法の改善等の資料とする。</p> <p>①-1.4 今後の高専のあり方について、第4ブロック(中国・四国地区)内の高専と協働して検討を進める。</p>	<p><b>(2)教育課程の編成等</b></p> <p>①-1.1 次世代型プラント技術者育成(PE)、アシスティブテクノロジー技術者養成(AT)、実践型AI活用技術者養成(AI)の各特別課程を継続的に開講している。今年度の受講者はPE 20名、AT 10名、AI 7名である。また、機械工学科および環境材料工学科においてカリキュラム変更を検討中である。</p> <p>①-1.2 3月2日に外部有識者による運営諮問会議を開催し、本校の教育研究活動、地域連携活動等について意見交換を実施する予定であり、そこで得られた意見を今後の学校運営に活用することとしている。</p> <p>①-1.3 3月1日以降にオンデマンドで開催する企業説明会に参加する企業を対象に、高専卒業生の評価に関するアンケート調査を実施し、今後の教育課程編成、授業実施方法の改善等の資料として活用することとしている。</p> <p>①-1.4 第4ブロック内の化学系学科を持つ4高専の化学工学協働共有事業で開発した教材を用いて反転授業などに取り組んでいる。11月25日開催の四国地区教務主事会議において情報交換し、今後の高専のあり方について検討した。</p>
<p>①-2 主に新居浜高専技術振興協会「愛テクフォーラム」関連企業と連携したインターンシップ、専攻科学生に対する教育の充実を図る。また、地域ニーズ、社会ニーズに応えられる人材を育成するために、地域産業界、大学との共同研究において、各専攻科コースの特色を生かした共同研究の充実を図る。</p>	<p>・コロナ禍において参加27名中7名の学生が、愛テクフォーラム関連企業においてインターンシップを行えた。</p> <p>・特別研究において、複数機関との連携も含めて、企業との共同研究は12件、その内、県内企業との共同研究7件(内、愛テク関連企業1件)、大学との共同研究は8件であった。</p>
<p>②-1.1 現在の提携校との連携を強化し、また海外教育機関との新たな提携を進め、海外留学やインターンシップなど学生交流を積極的に行う。</p> <p>②-1.2 タイ高専での教育活動を経験した本校の教員を中心に情報収集・共有を行うとともに、他高専の単位認定制度も参考にしながら、本校の実施形態に合った単位認定制度について検討する。</p> <p>②-1.3 オンラインで海外の学生と交流する試みを行う。</p>	<p>②-1.1 インドネシアポリテクとの協定へ向けて準備中。台湾の国立聯合大学とオンライン交流を行うなど、関係の強化に務めた。トビタテ留学の支援、台湾聯合大学インターンシップの募集を行う予定。</p> <p>②-1.2 タイ高専で教育活動を経験した本校教員を中心に情報を収集し、次年度のインターンシップ受入について計画を策定した。単位認定制度については検討には及んでいない。</p> <p>②-1.3 中国語会話の授業の中で、台湾の協定校と連携してオンラインでの交流を取り入れた。</p>
<p>②-2.1 今年度本科1年生に開設した「リベラルアーツ演習」を通してグローバルマインドの育成を推進する。</p> <p>②-2.2 今年度からカリキュラム化した「英会話演習」と「海外語学研修」を活発に運用し、学生の英語コミュニケーション力向上に活用する。</p> <p>②-2.3 留学経験者や外国人留学生・教師と関わる機会を授業内・課外で積極的に設ける。</p>	<p>②-2.1 リベラルアーツ演習を開講し、外国のSDGs達成状況などを調べ、海外への関心を惹起できた。</p> <p>②-2.2 「英会話演習」を周知し希望者が参加した。「海外語学研修」については、これまで海外研修を企画できなかったが、3月に研修を企画し、達成したい。</p> <p>②-2.3 留学経験者の情報はHPで周知している。長期留学生との交流は研修旅行や文化祭等で予定している。今年度から雇用した外国人常勤教員は授業内外で活躍。台湾とのオンライン交流を実施。</p>
<p>③-1 連合会主催の、ロボコン、プロコン、デザコンに対して、これまでどおりの学内環境、活動支援を行う。今年度は特にロボットコンテストの地区大会開催に尽力する。また、高専PRに繋がるコンテスト参加活動等においても、チャレンジプロジェクトをはじめとする後援会への支援依頼や寄付金等の外部資金獲得に努め、活動支援体制を整える。高専大会(地区大会、全国大会)等の体育局的活動において、外部指導員の雇用など、顧問教員の負担軽減に配慮すると同時に、学生が健全な活動を行える環境整備と運用体制を構築する。今年度は特に全国高専体育大会の開催に取り組む。</p>	<p>③-1 全国高専体育大会・ロボコンについて大会を無事に開催できた。夏季休暇中は合宿所を一定期間開いて支援を行った。後援会の寄付を得て、上記大会を円滑に行い、チャレンジプロジェクトも例年どおり実施した。高度化推進経費等を活用して安全管理のための外部指導員の雇用、教員の負担軽減を行い、健全な課外活動の運営を行うことができています。</p>
<p>③-2.1 従来どおり、ローターアクトクラブや奇術部のボランティア活動を支援し、善行活動事例を県や市に報告するとともに学生表彰等にて業績の周知・評価を行う。</p> <p>③-2.2 新居浜市消防本部、新居浜市消防団と連携し、平成30年度から学生消防団募集事業を行っている。学生消防団員には、消防団活動、防災・減災・救命措置に対する出前講座、啓発イベント等での活躍が期待されており、学生消防団への加入を奨励する。また、活動実績に対して、地域貢献に対する評価を行う。</p> <p>③-2.3 環境保全委員会を中心に校内美化ボランティアを募り、参加した学生を学内で表彰する。</p>	<p>③-2.1 ローターアクト部の地域の子どもたちへの学習支援は積極的に行われている。奇術部のボラについては、コロナ禍で機会は減ったが、地域へのイベント参加も行われた。表彰等で評価する予定である。</p> <p>③-2.2 学生消防団へ加入は行われている。表彰等で実績についての評価を行う。</p> <p>③-2.3 校内美化活動の管轄は、環境保全委員会から学生支援委員会に移行したが、従来通り活動を行っている。参加学生については学内で表彰する予定である。</p>
<p>③-3.1 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの採用実績等について、ウェブサイト等で広報を行う。</p> <p>③-3.2 留学する学生に対して、実りある留学となるよう事前指導を行うとともに、留学終了後には学内で報告会を開催する。</p> <p>③-3.3 その他、各種奨学金の情報提供を行う。</p>	<p>③-3.1 実績と今年度の案内を、学生・保護者に対して行った。</p> <p>③-3.2 トビタテの留学説明会を開き、トビタテ生の経験を報告した。</p> <p>③-3.3 奨学金の情報があれば、そのつど行う。</p>

令和4年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和5年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p><b>(3) 多様かつ優れた教員の確保</b></p> <p>① 専門科目の教員公募では、「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」を応募資格とする。ただし、一般教養科の教員公募では、原則は「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」ではあるが、分野によっては、「修士の学位」であっても「博士の学位を有する者」と同等程度の業績がある場合もあること、また、多様な人材からの応募が期待できるという側面も考慮し、人事委員会の議を経て、「修士以上の学位を有する者」を応募資格とするケースもありうる。</p> <p>公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨の文書を記載する。</p>	<p><b>(3) 多様かつ優れた教員の確保</b></p> <p>①電気情報工学科と数理科の公募を実施し、令和5年4月1日付け採用予定である。また、多様な背景を持つ教員組織を目指すため、公募要項のその他欄に「高等学校、民間企業、研究機関等において過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」と記載している。</p>
<p>② 昨年度に引き続き、将来的なクロスアポイントメント制度導入に向けて、近隣の大学、研究機関等の導入事例を調査する。</p>	<p>②協定書(案)について未着手</p>
<p>③ 昨年度に実施した教員人事構想ワーキングにおいて、子育て中の教員の業務軽減、授業負担軽減などにより働き易さを実現できる方策についての意見が出され、ワーキング座長(副校長)から校長へ意見を上申した。学事歴の見直しにより、今年度からは授業週を半期あたり一週削減し、土日に実施していたイベントを平日に行う等の対応を行う。引き続き、働き方改革を推進すべく、年次有給休暇の取得促進、教員の担当授業科目数調査、ライフステージに応じた配慮希望調査、等を進めることにより、誰もが働きやすい職場環境を整備するための具体的な方策について検討する。</p> <p>④ 教員公募の際、人事委員会において、外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえた上で検討する。</p>	<p>③11月開催予定の人事構想WGおよび学校改革推進室において、教員の負担軽減策を検討することとし、推進体制の整備に着手した。今年度から授業週を半期あたり一週削減し、土日に実施していたイベントを平日に行う学事歴で運用中である。また、各種委員会も17時までには終わるように、開始時間を早めるなどの工夫を取り入れた。</p> <p>④昨年度の公募により一般教養科(英語)に外国人教員を4月採用することができた。今後も外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえて人事委員会で検討する。</p>
<p>⑤ 「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。</p>	<p>⑤「高専・両技科大間教員交流制度」では、派遣、受入とも、希望者がいなかったが、来年度は教員高専間交流で1名、国内留学で1名、同居支援プログラムで1名の計3名が本校から他機関に派遣予定である。</p>
<p>⑥ 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修の有効活用(個人レベルでの研修への積極的参加の推奨、学校としての新任教員のSPODフォーラムへの参加義務)を実施すると同時に、SPODの講師派遣プログラムを毎年、本校で開催する。</p>	<p>⑥6月1日にSPOD講師派遣プログラムを対面形式で実施した。</p>
<p>⑦ 高専機構の顕彰制度に合わせて、学内顕彰(最優秀教員・優秀教員・最優秀学級担任)も継続して実施する。</p>	<p>⑦高専機構の顕彰制度に基づき、最優秀教員を2名(一般部門1名、若手部門1名)選出すると同時に、最優秀に続く優秀教員3名を10月に選出した。なお、最優秀学級担任は3月に選出予定である。</p>
<p><b>(4) 教育の質の向上及び改善</b></p> <p>①-1.1 モデルコアカリキュラムを起点とした教育の質保証の取組について、学生に周知するとともに、学生に対しては自己評価を、教員には授業改善を促す。また、各専門学科のディプロマポリシーに基づく到達目標の設定状況を把握する。</p> <p>①-1.2 アクティブラーニングや反転授業、動画教材作成など、主体的な学修を促すための試みを把握、学内で情報共有し、教育方法や教材などの共有化を検討する。</p> <p>①-1.3 ラーニングマネジメントシステムとして「Web Class」を活用し、学生の予習・復習や自学自習をサポートする。</p> <p>①-1.4 CBT(Computer-Based Testing)や勉学アンケート等により学生の学習到達度・学習時間を把握する。</p> <p>①-1.5 科目間調整連絡会を開催し、専門基礎科目と専門科目の担当教員間で密な連携を図り、授業改善に繋げる。</p>	<p><b>(4)教育の質の向上及び改善</b></p> <p>①-1.1 年度当初の教務委員会で質保証の重点6項目を説明し、教員に周知するとともに、教務委員を中心として各項目の分担を決めて取り組んでいる。</p> <p>①-1.2 1月31日の教員会にて授業改善報告「リベラルアーツ演習」を実施し、意見交換を行った。</p> <p>①-1.3 「Web Class」に講義資料や課題などをアップし、学生の予習・復習や自学自習をサポートを行っている。また、新型コロナウイルス感染症対策の遠隔授業にも「WebClass」を活用している。</p> <p>①-1.4 CBTを1～4年生対象として数学、物理、化学、一部の専門科目で実施した。その結果は、来年度の教員会で報告し教員間での情報共有を図る予定である。今年度は昨年度の「数学」と「物理」のCBTの結果が教員会で報告された。また、勉学アンケートを2月に実施し、学生の勉学状況を把握する予定である。</p> <p>①-1.5 11月に専門基礎科目と専門科目の教員同士で情報交換、課題共有のための科目間調整連絡会をTeams上で行った。</p>
<p>② 昨年度受審した大学改革支援・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価の結果を精査し、今後の教育改善に役立てる。学校独自の自己点検は引き続き継続して実施する。加えて、モデルコアカリキュラムに基づく国立高等専門学校の本科における教育の質保証について情報を収集し教育の質保証に役立てる。</p>	<p>② 昨年度審査を受けた機関別認証評価の指摘を踏まえて、教務委員会規程を一部改正してFDを実施する体制を明確化し、今年度から教員会での各種FD報告を教務委員会が主となって実施することとした。</p>

## 令和4年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和5年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>③-1.1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL(Project-Based Learning))の実施状況を把握するとともに、現在実施している取組を充実させる。</p> <p>③-1.2 医療現場における課題解決を目指した学科横断型「アシステックテクノロジー技術者育成特別課程」においてPBLを実施する。</p> <p>③-1.3 STEAM教育の支援および高度化を目指して、関連したテーマをマシンラーニング応用ラボや出前講座等に取り入れることを検討する。</p>	<p>③-1.1 各学科や出前授業でPBLの実施を行っていることを把握するとともに、地方公共団体等との連携の中で、地域や産業界が直面する課題を情報共有し、その課題解決に向けて検討を行った。</p> <p>③-1.2 前期5年生4名が医療現場のニーズを形にし、理学療法士等と作品についてディスカッションした結果、JAPAN-ATフォーラム2022、第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会において展示発表した。後期から4年生(M/E/D/Z科の学生9名)が新たなテーマに取り組んでいる。</p> <p>③-1.3 小中学生向けSTEAM教育の一環として、出前講座の中で、プログラミングを中心とした基礎的な情報教育と、段階的に課題解決に情報技術を用いるための応用教育を実施している。</p>
<p>③-2.1 企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、実習やインターンシップ等の共同教育を実施し、高専フォーラム等で取組事例を周知する。</p> <p>③-2.2 地域企業等と連携した「次世代型プラント技術者育成特別課程(PE課程)」において、現役プラント技術者による最前線の講義と実習を行うとともに、企業現場での実習(インターンシップ)を行うなど、共同教育を実施する。</p>	<p>③-2.1 PE課程において、X線を用いた分析装置の実習など、新たな教育コンテンツを導入した。また、地域と連携し安全教育を実施した。</p> <p>③-2.2 計画通り講義と実習を行うことができた。また今年度から、企業現場での実習の受講学年を、5年から4年に変更し、受講生が早期に現場を体験できるように改善した。</p>
<p>③-3 今年度1年生全学科に共通科目として新設したデータ・サイエンスと、従来の1年生共通科目の情報リテラシーの内容を一部見直すことにより、教育内容の高度化に向けた取り組みを進める。警察庁と連携し、学生向けの情報セキュリティ講座の実施を計画し、実施する。</p>	<p>③-3 後期から新設したデータ・サイエンスの授業が本科1年生全学科の共通科目として開始され、教育内容の高度化に向けた取り組みが始まった。学生向けの情報セキュリティ講座について、新型コロナ対策会議において使用場所の利用の問題をクリアできたので、詳細を計画中である。</p>
<p>④ 令和3年度は協力機関として参画していた長岡技術科学大学の先端研究基盤共用促進事業「コアファシリティ構築支援プログラム」に、令和4年度は実施機関として参画し、技術科学大学と教育研究分野で有機的な連携を図る。</p>	<p>④ 長岡技術科学大学の先端研究基盤共用促進事業「コアファシリティ構築支援プログラム」に本校の透過型電子顕微鏡(日本電子JEM2100Plus)を半遠隔装置として登録する準備を進めている。</p>
<p><b>(5) 学生支援・生活支援等</b></p> <p>①.1 配慮を必要とする学生に対して、従来どおり、配慮願を、本人、保護者、専門員、特別支援教育推進室メンバーにより作成する。配慮願を基に、全教員・該当の非常勤講師に配慮項目を通知し、各学科主任からも改めて周知を依頼する。同時に、当該学生が安心して就学できるよう、教員研修を開催する。さらに発達障害グレーゾーンも含めたインクルーシブ教育のあり方を検討する。</p> <p>①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続する。サステナブル(持続可能)な学生どうしが支えあうピアサポート体制組織の構築を検討する。学級担任に対して、年度当初に学生との個別面談を実施させる。</p> <p>①.3 保健室の看護師も常勤1名、非常勤1名の常時2名体制を継続し、学生相談の窓口となる連携強化に努める。</p> <p>①.4 メンタルヘルス教育推進室が企画する教職員や学生対象の研修を継続して開催する。</p> <p>①.5 いじめ防止対策として学生主事講話やいじめアンケートを実施する際、「いじめの定義」を学生に説明し、教職員にいじめ防止研修を行う。</p>	<p><b>(5) 学生支援・生活支援等</b></p> <p>①.1 配慮願の作成、周知については手順を踏んで、きちんと行った。教員研修については、機構本部が実施した「第19回全国国立高等学校学生支援担当教職員研修」の録画配信コンテンツを全教員に視聴させることとした。</p> <p>①.2 カウンセラーは精神科医・臨床心理士・SSWなどを平日には配置している。スクールカウンセラーと連携し、学生保健委員会を中心にピアサポーター育成に取り組んでいる。学級担任の個別面談は4月に実施し、事件・事故防止のため学生の出席状況把握を全学的に取り組んでいる。</p> <p>①.3 看護師の2名体制を維持し、窓口の強化は達成できている。</p> <p>①.4 教職員には上記のコンテンツの視聴により研修を行い、学生に対しては、学生相談室講話などを実施したり、学生相談室だよりを発行してメンタルヘルスの知識などを伝達したりする取組を行っている。</p> <p>①.5 いじめ対策としては、学生主事講話を実施、アンケートも実施している。いじめ防止研修は、上記のコンテンツ視聴を義務づけている。</p>
<p>② 奨学金制度について、全学生に公平な情報提供と個人の状況に応じた申請を行えるよう、学内掲示と担任を通じて周知を行うとともに、WebClassにも情報を掲載して周知を徹底する。特に担任は、奨学金制度のPR、学生個人の経済的状況把握、学生と各奨学金制度へのマッチングを図る。</p>	<p>② 学生への周知は、各教室への掲示、HP、WebClass、学級担任からのPRなど多様なツールを利用して周知徹底できている。学生の経済的困窮の問題については、学級担任のみならず学生相談室のSSWも連携し、その他、外部の支援金も検討しつつ、十分な対応ができている。</p>
<p>③.1 新5年生・専攻科2年生に対する就活情報を早期に収集し活用できるよう、キャリアプラザにて情報収集の場を開設する。キャリアプラザは、全学生が利用可能であり、低学年から就職先や企業が求める高専生像などを確認することができる場として活用する。また、企業へのアンケート、卒業生へのアンケート等を分析のうえ情報共有し、学内でのキャリア教育の情報源とする。さらに、キャリアプラザの維持・管理と情報窓口を担当する専任職員(外部委託等)の配置を検討する。</p> <p>③.2 オンライン企業説明会の資料をWebClassに掲載し全学生に公開し、本科1年生から将来の就労を意識させる取組を行う。</p>	<p>③.1 キャリアプラザについては情報収集の場としてキャリア教育の施設として活用している。企業アンケート等の分析を行い、情報は全教職員で共有し、低学年も特別活動等で活用している。</p> <p>③.2 昨年度3月にオンラインで実施した合同企業説明会のコンテンツを全学生に公開し、特別活動で視聴させるなど、将来の就労を意識させる取組を行った。</p>

## 令和4年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和5年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p><b>1. 2 社会連携に関する事項</b></p> <p>①.1 教員の年間業績報告書を作成し、ウェブサイトで公開することを継続する一方で、Researchmapへの統合も検討する。                      ①.2 高度技術教育研究センターのウェブサイトや本校主催の工業技術懇談会で「教員研究テーマ紹介」や「最新の取り組み」についての情報を発信する。                      ①.3 Researchmapの情報の更新を促す。国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の全教員登録と最新情報への更新を促す。                      ①.4 2022年度版新居浜高専教員シーズ集を作成し、ウェブサイトで公開する。</p> <p>②.1 高専リサーチアドミニストレータ(KRA)や地方公共団体の関係者から情報収集を行い、共同研究・受託研究の受入れを促進する。                      ②.2 マッチングイベント(オンライン含む)への出展を積極的に推進し、社会へ情報発信するとともに知的財産化にも努めるように促す。</p> <p>③-1.1 情報発信力の強化のために、昨年度YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善について検討する。                      ③-1.2 画像や文字による情報発信に加え、動画コンテンツの作成及び内容の検討を行う。</p> <p>③-2 各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等については、ウェブサイトで公開するとともに、積極的に報道機関へ情報発信を引き続き行う。また、地域の地上波テレビ局でのCM放映や情報サイト、情報誌等へも引き続き情報発信を行う。報道された内容等については機構本部へその都度報告する。</p>	<p><b>1. 2 社会連携に関する事項</b></p> <p>①.1 教員の年間業績報告書を作成しウェブサイトで公開した。                      ①.2 60周年記念式典で、最近の研究トピックスを紹介した。また、来年3月に工業技術懇談会の実施を検討している。                      ①.3 科研費申請と併せてResearchmapの情報の更新を促した。国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の更新を行った。                      ①.4 2022年度版新居浜高専教員シーズ集を作成し、ウェブサイトで公開した。</p> <p>②.1 地方公共団体との連携として、愛媛県および伊予銀行との連携協定を締結し、地域との連携を強化できた。                      ②.2 マッチングイベント(オンライン含む)への出展を積極的に推進し、社会へ情報発信するとともに知的財産化にも努めるように促す。</p> <p>③-1.1 情報発信力の強化のために、YouTubeによる動画配信の公式チャンネルを一般公開している。【再掲】1. 1(1)①-1.3                      ③-1.2 昨年開設したWebページを改装し、学校紹介ページとして活用している。また、新規の動画なども多数掲載している。</p> <p>③-2 ウェブサイトにおいて各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等について適時公開している。また、報道機関への情報発信も行い、新聞等のメディアで掲載されている。また、昨年度、広く本校の名称を認知してもらうために実施した地上波テレビでのCM放送について、中学校から得た情報から今年度は放送時期を見直して実施している。また、他にも情報サイト、情報誌等へも情報発信を行っており、報道された内容等については機構本部へその都度報告を行っている。</p>
<p><b>1. 3 国際交流等に関する事項</b></p> <p>①-1 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、可能な限り支援・協力を行う。</p> <p>①-2 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、可能な限り支援・協力を行う</p> <p>①-3 タイ高専での教育活動を経験した本校の教員を中心に情報収集・共有を行うとともに、他高専の単位認定制度も参考にしながら、本校の実施形態に合った単位認定制度について検討する。</p> <p>①-4 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、可能な限り支援・協力を行う。</p> <p>①-5.1 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。【再掲】1. 1(1)②-2.2                      ①-5.2 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。【再掲】1. 1(1)②-2.3                      ①-5.3 海外の教育機関との提携を進め、交流を促進する</p> <p>② 本校の学生・教職員の海外派遣・国際交流活動を積極的に支援するとともに、第4ブロック及び機構本部の事業に参画することにより、本校と「高専(KOSEN)」の認知度を高めていく</p> <p>②-1.1 現在の提携校との連携を強化し、また海外教育機関との新たな提携を進め、海外留学やインターンシップなど学生交流を積極的にに行う。                      ②-1.2 タイ高専での教育活動を経験した本校の教員を中心に情報収集・共有を行うとともに、他高専の単位認定制度も参考にしながら、本校の実施形態に合った単位認定制度について検討する。1. 1(2)-②-1の再掲</p>	<p><b>1. 3 国際交流等に関する事項</b></p> <p>①-1 先行して参画している他高専の情報を収集し、そのあり方を検討し、支援・協力を行う。特にタイ高専の受入について積極的な検討を行った。</p> <p>①-2 先行して参画している他高専の情報を収集している。</p> <p>①-3 タイ高専で教育活動を経験した本校教員を中心に情報を収集し、次年度のインターンシップ受入について計画を策定した。単位認定制度については検討には及んでいない。</p> <p>①-4 先行して参画している他高専の情報を収集している。</p> <p>①-5.1 英文併記の学校案内を作成するなど、広報活動を行った。【再掲】1. 1(1)②-2.2                      ①-5.2 今後の予定として研修旅行や交流行事(7月に企画したが感染拡大により延期)を企画しているので、発信紹介する予定である。【再掲】1. 1(1)②-2.3                      ①-5.3 インドネシアポリテクとの協定へ向けて準備中。台湾の国立聯合大学とオンライン交流を行うなど、関係の強化に務めた。</p> <p>② 第4ブロック・機構本部の国際交流事業に参画し、とくに次年度の日台合同カンファレンスの開催、タイ高専生のインターンシップ受入について準備を進めている。トビタテ留学や留学プログラムを提示し、学生の積極的な参加を促している。</p> <p>③-1 インドネシアポリテクとの協定へ向けて準備中。台湾の国立聯合大学とオンライン交流を行うなど、関係の強化に務めた。トビタテ留学の支援、台湾聯合大学インターンシップの募集を行う予定。タイ高専で教育活動を経験した本校教員を中心に情報を収集し、次年度のインターンシップ受入について計画を策定した。単位認定制度については検討には及んでいない。【1. 1(2)-②-1の再掲】</p>

# 令和4年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和5年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>③-2.1 今年度本科1年生に開設した「リベラルアーツ演習」を通してグローバルマインドの育成を推進する。</p> <p>③-2.2 今年度からカリキュラム化した「英会話演習」と「海外語学研修」を活発に運用し、学生の英語コミュニケーション力向上に活用する。</p> <p>③-2.3 留学経験者や外国人留学生・教師と関わる機会を授業内・課外で積極的に設ける。</p> <p>1. 1(2)-②-2の再掲</p>	<p>③-2.1 リベラルアーツ演習を開講し、外国のSDGs達成状況などを調べ、海外への関心を惹起できた。</p> <p>③-2.2 「英会話演習」を周知し希望者が参加した。「海外語学研修」については、これまで海外研修を企画できなかったが、3月に研修を企画し、達成したい。</p> <p>③-2.3 留学経験者の情報はHPで周知している。長期留学生との交流は研修旅行や文化祭等で予定している。今年度から雇用した外国人常勤教員は授業内外で活躍。台湾とのオンライン交流を実施。1. 1(2)-②-2の再掲</p>
<p>③-3.1 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの採用実績等について、ウェブサイト等で広報を行う。</p> <p>③-3.2 留学する学生に対して、実りある留学となるよう事前指導を行うとともに、留学終了後には学内で報告会を開催する。</p> <p>③-3.3 その他、各種奨学金の情報提供を行う。</p> <p>1. 1(2)-③-3の再掲</p>	<p>③-3.1 実績と今年度の案内を、学生・保護者に対して行った。</p> <p>③-3.2 トビタテの留学説明会を開き、トビタテ生の経験を報告した。</p> <p>③-3.3 奨学金の情報があれば、そのつど行った。</p> <p>1. 1(2)-③-3の再掲</p>
<p>④-2.1 新居浜市国際交流協会と協力して地域と一体となった長期留学生支援を行う。</p> <p>④-2.2 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。</p> <p>④-2.3 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。</p> <p>④-2.4 海外提携校との関係を強化し、さらに新たな提携先を開拓して、短期留学生の受入を促進し、あわせて施設、受入体制を整備を行う。</p> <p>1. 1(2)-②-2の再掲</p>	<p>④-2.1 新居浜市国際交流協会から案内されたイベントに長期留学生が参加し、地域と一体となった交流をしている。</p> <p>④-2.2 英文併記の学校案内を作成するなど、広報活動を行った。</p> <p>【再掲】1. 1(1)②-2.2</p> <p>④-2.3 今後の予定として研修旅行や交流行事(7月に企画したが感染拡大により延期)を企画しているので、発信紹介する予定である。</p> <p>④-2.4 インドネシアポリテクとの協定へ向けて準備中。台湾の国立聯合大学とオンライン交流を行うなど、関係の強化に務めた。</p> <p>1. 1(2)-②-2の再掲</p>
<p>④-2 先行する他高専の情報を収集しながら、将来的な受入に向けて制度及び施設の整備を進める</p>	<p>タイ高専3年次編入については、第4ブロックの拠点校と連携し、進めている。</p>
<p>⑤-1 海外渡航時における連絡体制及び危機管理の体制整備を行う。</p> <p>⑤-2 海外渡航時には海外旅行保険への加入を義務付ける。</p> <p>⑤-3 外国人留学生に対してグローバル教育センター、留学生指導教員及び学生チューターによる学業・生活支援を引き続き継続する。</p> <p>⑤-4 外国人留学生が学内外で充実した生活を送ることができるよう地域の支援団体の協力を仰ぐ</p>	<p>⑤-1 本校におけるマニュアルの策定を行った。</p> <p>⑤-2 加入を義務づけ、届出で事前に確認している。</p> <p>⑤-3 指導教員・学生チューターによる支援を行って、実施状況を管理している。</p> <p>⑤-4 新居浜市国際交流協会と連携し、地域イベントへの参加、および日本語学習の支援に協力を仰いだ。</p>
<p><b>2. 業務運営の効率化に関する事項</b></p> <p><b>2.1 一般管理費等の効率化</b></p> <p>① 一般管理費縮減のため、予算の計画的な執行と適正な物品管理に努める。各種事業・行事等の実施に当たっては、関係機関等と連携を密にし効率的に運営する。</p> <p>② 少額随意契約の基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。</p> <p>③ 本校作成の「財務会計マニュアル」をさらに充実させるため、見直し等を行う。</p>	<p><b>2. 業務運営の効率化に関する事項</b></p> <p><b>2.1 一般管理費等の効率化</b></p> <p>① 予算の計画的執行及び適正な物品管理に努めている。各種事業・行事等の実施については、関係部署等と連携して効率的に運営できている。本部からの新型コロナウイルス感染症対策費を活用し、一般管理費の縮減に努めている。</p> <p>② 一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の確保、より安価で適正な価格での契約に努めている。</p> <p>③ 「財務会計マニュアル」については、現在の状況に則した内容にするため、改訂作業を行っている。</p>
<p><b>2.2 給与水準の適正化</b></p> <p style="text-align: right;"><b>高専機構本部</b></p>	<p style="text-align: center;">—</p>
<p><b>2.3 契約の適正化</b></p> <p>① 少額随意契約の基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。</p> <p>【再掲】2. 1②</p> <p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p><b>3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</b></p> <p>・校長裁量経費として、教育研究推進費、共同研究推進費及び外部資金獲得推進費を設け、社会貢献・地域連携促進につながるよう予算措置を行う。</p> <p>・運営費交付金の会計処理について、業務達成基準による収益化が原則とされたことに注意し、収益化単位の業務ごとに予算管理する。</p>	<p><b>2.3 契約の適正化</b></p> <p>① 一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の確保、より安価で適正な価格での契約に努めている。</p> <p>【再掲】2. 1. ②</p> <p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p><b>3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</b></p> <p>① 教育研究推進費、共同研究推進費は5月に募集を行い、7月に該当教員へ予算配分を行った。外部資金獲得推進費については、外部資金の申請状況に基づき、4月及び11月に当該教員へ予算配分を行った。</p> <p>② 業務達成基準の収益化については、業務終了時に収益化できるよう、収益化の単位ごとに予算管理を行っている。</p>

## 令和4年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和5年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>①.1 科学研究費の申請・採択件数の増加を目的とし、関連情報を学内へ周知するとともに講習会等を実施する。</p> <p>①.2 研究業績の向上と外部資金獲得を目的に、学術論文誌への投稿を義務付けた校長裁量経費「共同研究推進費」の募集を行う。</p> <p>①.3 卒業生が就職した企業、同窓会等からの寄附金の獲得につながる取組を検討する。</p> <p>①.4 イノベーションジャパン等の各種マッチングイベントについては、出展に係る経費の一部を支援するなど積極的に参加を推奨することで共同研究等に繋げる。</p>	<p>①.1 科研費採択教員による科研費セミナーを実施した。本年度の実施件数(代表)は17件となり過去最高の件数である。また、申請件数も昨年度の件数を上回った。</p> <p>①.2 校長裁量経費「共同研究推進費」を実施し5件を採択した。また、採択教員の科研費への申請を強化できた。</p> <p>①.3 新居浜高専基金を設立し、寄附金の獲得拡大につながる枠組みを整備できた。</p> <p>①.4 第1回高専研究国際シンポジウム(KRIS2023)に参加する教員への参加経費支援を検討している。</p>
3.3 予算	—
3.4 収支計画	—
3.5 資金計画	—
4. 短期借入金の限度額	—
高専機構本部	—
5. 不要財産の処分に関する計画	—
6. 重要な財産の譲渡に関する計画	—
7. 剰余金の使途	—
<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>8.1 施設及び設備に関する計画</p> <p>国立高専機構個別施設計画(改修予定事業等)年次計画に基づき、R5年度概算要求として【情報教育センター改修】【螢雪寮改修】【電子制御工学科棟改修】の3事業の要求書を提出。示達に備え、移転・仮運用計画、新規物品購入計画の立案を行う。また、R6年度要求分についてはキックオフ済みとなっており、R5年度要求事業の状況に合わせて、学内調整を加速する予定である。</p>	<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>8.1 施設及び設備に関する計画</p> <p>8.1 12月末にR4年度補正事業として【情報教育センター改修】事業の内示を受けた。これを受けて、関連部門と協働しながら事前準備を行っているところである。</p> <p>設計業務: 公募中                  建新・移転費: 予算要求中                  工事期間中における仮運用計画: 策定済み</p>
①-2 非構造部材の耐震点検・耐震対策チェックリストに基づくパトロールを月一回のペースで実施し、緊急度に応じて対策を講じる。	①-2 計画通りパトロールを実施している。今年度は、現在までのところ対策が必要な事象は発生していない。
②新入生及び新任教職員に「実験実習安全必携」を配付する。また、学外から講師を招いて、放射線業務従事者講習会を実施する。	② 新入生及び新任教職員に「実験実習安全必携」を配付した。愛媛大学から講師を招き、放射線業務従事者講習会(8/3)を開催した。
③.1 女性教職員、女子学生のニーズ調査を実施し、整備計画を策定の上、緊急度等に応じ整備を推進する。	③.1 ニーズ調査は年度末実施予定。ただし、緊急案件が複数発生していることから、これらについては随時対応中。
③.2 女子学生の受入を推進するため、現在進行中のトイレ改善整備計画に基づき、引き続き女子トイレの整備を推進する。	③.2 年度末に向けて、予算状況を見ながらトイレ改善計画に基づき整備を推進する予定である。
<p>8.2 人事に関する計画</p> <p>(1)方針</p> <p>①.1 休日のクラブ安全管理指導員は、外部委託による体制を継続し、学生活動の現状についての情報連携の強化を図る。また、外部指導員を活用した課外活動支援を検討し、実施のための人件費の確保や具体的な業務内容についても検討する。</p> <p>①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー、スクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続する。【再掲】1. 1(5)①.2</p> <p>①.3 保健室の看護師も常勤1名、外部委託1名の常時2名体制を継続し、学生相談の窓口となる連携強化に努める。【再掲】1. 1(5)①.3</p> <p>①.4 教員の負担軽減を目的とし、学生寮日直業務及び学寮指導業務は、外部委託を継続する。また、2名体制の宿直業務のうち1名を、土・日・祝日は外部委託しているが、平日も委託することを検討する。</p>	<p>8.2 人事に関する計画</p> <p>(1)方針</p> <p>①.1 休日のクラブ安全管理指導員は、外部委託による体制を継続し、学生活動の現状についての情報連携の強化を図った。外部指導員を活用した課外活動支援が可能かどうかを検討中である。実施のための人件費の確保や具体的な業務内容についても検討中である。</p> <p>①.2 カウンセラーは精神科医・臨床心理士・SSWなどを平日には配置している。スクールカウンセラーと連携し、学生保健委員会を中心にピアサポーター育成に取り組んでいる。学級担任の個別面談は4月に実施し、事件・事故防止のため学生の出席状況把握を全学的に取り組んでいる。【再掲】1. 1(5)①.2</p> <p>①.3 看護師の2名体制を維持し、窓口の強化は達成できている。【再掲】1. 1(5)①.3</p> <p>①.4 教員の負担軽減を目的とし、学生寮日直業務及び学寮指導業務は、外部委託を継続している。また、2名体制の宿直業務のうち1名を、土・日・祝日は外部委託を継続し、さらに本年度後期からは平日3日間分も外部委託している。</p>
③ 第4期中期目標・計画期間中に達成すべき人員枠「73」の枠の中で、教授枠を利用しての助教枠の運用を行うことにより、若手教員の採用枠を確保する。	第4期中期目標・計画期間中に達成すべき新たな人員枠「73」の枠の中で、教授枠を利用しての助教枠の運用を行うことにより、若手教員の採用枠を確保しつつ、今後の採用計画の立案および学内昇格人事を行っている。

令和4年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和5年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>④-1 専門科目の教員公募では、「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」を応募資格とする。ただし、一般教養科の教員公募では、原則は「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」ではあるが、分野によっては、「修士の学位」であっても「博士の学位を有する者」と同等程度の業績がある場合もあること、また、多様な人材からの応募が期待できるという側面も考慮し、人事委員会の議を経て、「修士以上の学位を有する者」を応募資格とするケースもありうる。</p> <p>公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨の文書を記載する。【再掲】1. 1(3)①</p>	<p>電気情報工学科と数理科の公募を実施し、令和5年4月1日付け採用予定である。また、多様な背景を持つ教員組織を目指すため、公募要項のその他欄に「高等学校、民間企業、研究機関等において過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」と記載している。【再掲】</p>
<p>④-2 近隣大学の実施状況を参考に、同制度の実施可能性の高い組織(地元企業、近隣の大学・研究機関等)を想定した、協定書(案)について検討する。【再掲】1. 1(3)②</p>	<p>協定書(案)について未着手【再掲】</p>
<p>④-3 これまで育児・介護などのライフステージに応じた勤務形態の制度化については、各学科等の現状の把握や意見聴取などを行ってきており、今後、更に検討を進めるための体制の整備に着手する。【再掲】1. 1(3)③</p>	<p>11月開催予定の人事構想WGおよび学校改革推進室において、教員の負担軽減策を検討することとし、推進体制の整備に着手した。今年度から授業週を半期あたり一週削減し、土日に実施していたイベントを平日に行う学事歴で運用中である。また、各種委員会も17時までに終わるように、開始時間を早めるなどの工夫を取り入れた。【再掲】</p>
<p>④-4 教員公募の際、人事委員会において、外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえた上で検討する。【再掲】1. 1(3)④</p>	<p>昨年度の公募により一般教養科(英語)に外国人教員を4月採用することができた。今後も外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえて人事委員会で検討する。【再掲】</p>
<p>④-5.1 教職員対象に外部講師による男女共同参画・ダイバーシティ等に関する研修会を開催する。</p> <p>④-5.2 学外機関が主催する男女共同参画・ダイバーシティに関する研修会に男女共同参画推進室員を派遣する。</p> <p>④-5.3 男女共同参画・ダイバーシティに関する具体的な支援事業について、学内教職員への情報発信を促進する。</p> <p>④-5.4 男女共同参画・ダイバーシティに関する情報をウェブサイトにおいて発信する。</p> <p>④-5.5 第7回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に参加し、情報の共有・普及を行う。</p> <p>④-5.6 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加し、情報の共有・普及を行う。【再掲】1. 1(1)②-1</p>	<p>④-5.1 教職員対象に外部講師による男女共同参画・ダイバーシティ等に関する研修会をオンラインで開催する。</p> <p>④-5.2 学外機関が主催する男女共同参画・ダイバーシティに関する研修会に男女共同参画推進室員を派遣する予定である。現時点では開催要項は入手していない。</p> <p>④-5.3 男女共同参画・ダイバーシティに関する具体的な支援事業について、学内教職員への情報発信を促進している。</p> <p>④-5.4 男女共同参画・ダイバーシティに関する情報をウェブサイトにおいて発信する予定である。</p> <p>④-5.5 第7回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に参加予定だが、まだ開催要項が未到着である。</p> <p>④-5.6 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加する予定である。</p>
<p>⑤ 引き続き、近隣国立大学との積極的な人事交流を推進する。また、近隣高専と事務系職員の採用に係る合同面接を実施し、将来的な高専間の人事交流についても両高専間で検討する。</p>	<p>今年度は人事交流により愛媛大学から6名が派遣されている。来年度も5名程度の人事交流を予定している。また、弓削商船高等専門学校と合同で職員の新規採用面接を実施した。</p>
<p>(2) 人員に関する指標</p> <p>常勤職員の職務能力を向上させるための機会(各種研修への参加推奨、自律的な活動への評価等)、業務の効率化を図るための方策(業務改善アイデア)、事務のIT化(グループウェアの活用等)に向けた取組等を通じて、人材の育成及び人材の適切な配置に努める。</p>	<p>職員の各種研修等については、積極的に参加させており、人材の育成に努めている。また、今年度からGaroonを導入し、事務だけでなく学内全体のIT化を図った。</p>
<p><b>8. 3 情報セキュリティについて</b></p> <p>昨年度受審した情報セキュリティ監査における指摘事項に対して必要な対策を講じる。</p> <p>PDCAの定着を図るため、機構本部のサイバーセキュリティ関係規程のひな形に合わせて新居浜高専の情報セキュリティ関係規程の改定を実施する。</p> <p>機構本部で計画するインシデント対策訓練との連携し、新居浜高専の対応訓練の実施、新居浜高専全教職員にeラーニングによるセキュリティ教育の実施により、教職員の意識向上を図る。</p> <p>新居浜高専において、トップセミナー、情報セキュリティ教育を受講する。</p> <p>全教職員にたいして、すぐやる3箇条の実施を徹底するよう啓発する。</p> <p>以上を令和4年度における情報セキュリティ対策を総合的に推進するための計画とする。</p>	<p><b>8. 3 情報セキュリティについて</b></p> <p>情報セキュリティ監査における指摘事項に対して、順次対策を講じている。</p> <p>サイバーセキュリティ関係規程の改定手続きを進めている。</p> <p>11月に実施される第1回インシデント対策訓練について受信の確認を行った。全体訓練の準備を進めている。</p> <p>職場巡視の際に、すぐやる3箇条の掲示を確認するとともに、運営会議、教員会などにおいて、実施の徹底を啓発している。</p>



## 令和4年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和5年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p><b>8. 4 内部統制の充実・強化</b>                      ①-1 予算配分等の重要課題については、校長のリーダーシップの下、運営会議等において迅速かつ効果的に意思決定を行う。また、他高専等との間では必要に応じてWEB会議システムを活用する。</p>	<p><b>8. 4 内部統制の充実・強化</b>                      ①-1 予算配分等の重要課題については、校長のリーダーシップの下、運営会議等において迅速かつ効果的に意思決定を行うよう努めている。新型コロナウイルス感染症への対応のため、必要に応じて対策本部会議を開催し、状況を共有するとともに、それに応じた取組・情報発信を行っている。(1回/1月程度)また、随時学内の感染状況をTeamsを用いて共有しており、迅速な対応を取ることができるよう努めている。なお、今年度においても各種会議等については、学内外に関わらずWeb会議システムを活用している。</p>
<p>①-2 校長・事務部長会議等で得た情報については、校長が運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底を図る。</p>	<p>①-2 校長・事務部長会議等で得た情報については、校長が運営会議や教員会等で周知を行い、全学的な情報共有の徹底に努めている。</p>
<p>①-3 ブロック校長会議等において、学校運営や教育活動の在り方等について意見交換を行う。</p>	<p>①-3 第1回四国地区高専校長・事務部長会議(5月9日)、第1回第4ブロック校長会議(6月1日)、第2回同会議(10月14日)に参加し、地区及びブロック内での課題等について情報共有と連携を図っている。</p>
<p>②-1 校長は理事長との面談において得た機構全体の共通課題等について、運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底を図る。                      ②-2 校長と主事をはじめ各部門の長(専攻科長、センター長、室長)とで各担当部署における今年度の年度計画や課題等について確認を行うとともに情報共有を行う。                      ②-3 校長と全教員との面談を実施する。</p>	<p>②-1 校長が理事長との面談において得た機構全体の共通課題や本校の課題等について、運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底に努めている。                      ②-2 校長と主事をはじめ各部門の長(専攻科長、センター長、室長)との間で、その都度機会を設け、課題等について情報共有に努めている。                      ②-3 校長と全教員との面談を6月に実施した。</p>
<p>②-2.1 教職員全員を対象に機構本部作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づく自己点検を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。                      ②-2.2 高専機構主催の階層別研修等に参加するほか、全学的にコンプライアンス意識を浸透させる多ために研修等を実施する。</p>	<p>②-2.1 教職員全員を対象に機構本部作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づく自己点検については、現在実施している。                      ②-2.2 高専機構主催の階層別研修に参加するほか、7月にコンプライアンス研修を実施した。また、11月24日に教員対象のハラスメント研修会の開催を実施した。</p>
<p>②-3 リスク事案については、「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制」に基づき、速やかに機構本部担当へ連絡をするとともに、本部と十分な連携のもと適切に対処する。</p>	<p>②-3 リスク事案(新型コロナウイルス感染症、情報セキュリティ関連を含む)については、「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制」に基づき、速やかに機構本部担当へ連絡するとともに、本部と十分な連携のもと適切に対処することに努めている。</p>
<p>③.1 高専相互監査において、効率的かつ効果的な監査を実施するため、監査事項等について、会計担当職員の理解を深める。また、監査事項を中心に自己点検と職員間の相互チェックを行う。                      ③.2 高専機構の不正防止計画に則した取組を確実に実施するため、適正な体制整備を行う。                      ③.3 学内における内部監査等が適切に実施できるよう、随時監査内容等の見直しを行う。</p>	<p>③.1 被監査校で監査を受けるにあたり、担当者間で打ち合わせを行い、監査事項等について理解を深めた上で監査に臨む。                      ③.2 学内規程が高専機構の不正防止計画に則したものとなっているか随時点検を行い、必要に応じて見直しを行うこととしている。会計機関の補助者及び金庫監守責任者については、適切に変更手続きを行った。                      ③.3 学内内部監査については年度内での実施に向けて準備を進め、手続きを行っている。</p>
<p>④ 高専機構の不正防止計画等への取組状況について、定期的に報告を行う。また、学内で策定した「適正な会計処理に向けた対応策」の見直しを継続的に実施し、高専機構の不正防止計画とともに周知徹底を図り、不正防止に努める。</p>	<p>④ 高専機構の不正防止計画等への取り組み状況については、例年状況報告を行っている。「適正な会計処理に向けた対応策」については、高専機構の規則改正時など必要の都度、見直しを行うこととしている。高専機構の不正防止計画とともに7月及び12月に学内説明会を開催し周知した。学内研修未受講者対象に年度内に再度研修を実施した。</p>
<p>⑤ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した本校の年度計画を策定する。</p>	<p>⑤ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した本校の年度計画を策定した。</p>

## 新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成17年2月8日規程第2号

### (設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するため、運営諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

### (審議事項)

第2条 会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

- (1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
- (2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

### (組織)

第3条 会議は、本校の教職員以外の者で、高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから、校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。

### (任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任することを妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (議長)

第5条 会議の議長は、委員の互選により選出する。

- 2 議長は、会議の会務を総括する。

### (運営)

第6条 会議は、校長が招集する。

- 2 会議は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

### (報告)

第7条 校長は、運営諮問会議での審議事項について、運営会議に報告するものとする。

### (事務)

第8条 会議の事務は、総務課において行う。

### (雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

### 附 則

- 1 この規程は、平成17年2月8日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程（平成13年8月29日規程第8号）は、廃止する。

### 附 則

この規程は、平成24年11月27日から施行する。

令和4年度（第18回）

運営諮問会議報告書

令和5年3月

新居浜工業高等専門学校総務課

〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7番1号

TEL: (0897)37-7700

FAX: (0897)37-7842

HP: [www.niihama-nct.ac.jp](http://www.niihama-nct.ac.jp)